

徳島県立博物館年報

第10号 (平成12年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 10 (for the fiscal year of 2000)



目 次

I 展覧事業

1. 常設展……………2
2. 企画展……………3
3. 特別陳列……………8
4. 常設展の更新に向けての取り組み……………9
5. 展示関係出版物……………9

II 調査研究事業

1. 課題調査……………10
2. 分野別（個別）調査研究……………12
3. 文部省科学研究費補助金による研究……………14
4. 他機関との共同研究……………14
5. 研究成果の公表……………14
6. 研究会・学会等の開催……………17

III 資料収集保存事業

1. 購入資料……………18
2. 寄贈資料……………19
3. 寄託資料……………20
4. 資料の貸し出し……………20
5. 特筆すべき資料の受け入れと整理……………20
6. 館蔵資料数……………21
7. 資料収集委員会……………21
8. 文献資料の収集……………21
9. 資料の燻蒸……………22

IV 普及教育事業

1. 普及行事……………23
2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等
……………25
3. 博物館実習生の受け入れ……………26

4. 学校教育との連携……………26
5. 博物館の広報活動……………28
6. 博物館友の会……………29
7. 普及教育関係出版物……………30

V 管理運営

1. 組織・職員……………31
2. 予算……………32
3. 博物館協議会……………32
4. 各種委員・非常勤講師等の受諾……………33
5. コンピュータシステム……………33
6. 博物館ネットワーク……………34
7. 視察等博物館関係来訪者……………36

VI 観覧者統計……………37

VII 施設の概要

1. 沿革……………40
2. 施設の概要……………40
3. 博物館各室面積……………42

VIII 例規……………44

I 展 覧 事 業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。しかし、開館10周年が過ぎ、常設展の更新（リニューアル）をどう図っていくかが大きな課題となっている。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格および甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成12年度は次の展示を行った。

●くらしの中の藍染—収蔵コレクション—

3月29日（水）～5月28日（日）

企画展「藍のよそおい」に関連し、民俗分野で収集してきた藍染資料をまとめて展示した。

●山の祈り—修験道の世界—

6月13日（火）～8月27日（日）

館蔵の修験道関係資料や写真を展示し、山岳信仰・修験道の歴史を紹介した。

●江戸時代の絵画—館蔵品から—

8月29日（火）～10月22日（日）

館蔵近世絵画資料のうち、これまでほとんど展示する機会がなかった作品や、未公開の作品を展示した。

●徳島に住んだポルトガル人・モラエスの生涯

10月24日（火）～1月28日（日）

館蔵資料をもとに、モラエスの著作や人となりを紹介した。

●慈光寺墓地出土品

1月30日（火）～4月22日（日）

蜂須賀家と徳島藩士の墓から出土した近世陶磁や玩具などを紹介した。

●阿波の板碑—石川コレクションの拓本を中心に—

1月30日（火）～4月22日（日）

故石川重平氏寄贈資料のうち、主として鎌倉時代の板碑の拓本を展示した。

●鳴門の製塩用具

3月27日(火)～平成14年1月(予定)
 鳴門市から寄託された製塩用具(国指定重要有形民俗文化財)の一部を展示した。

2. 企画展

平成12年度は、次の4回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「藍のよそおい」

徳島は、藍染の原料である藍の産地として古くから有名である。ところで、藍染といえば濃紺に染めた庶民の日常着を思い浮かべるが、染織の歴史を見渡したとき、藍はじつに様々な色合いによって効果的に使われている。

この企画展では、江戸時代のきものを中心に紹介しながら、藍染の多様性を紹介した。

●期間 平成12年4月18日(火)～5月21日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示構成と主な展示資料

①染と織

- 扇面散文様小袖屏風(国立歴史民俗博物館蔵)
- 梅樹に雪景文字文様小袖(京都国立博物館蔵)
- 貝桶と海松貝斜段文様振袖(黒川古文化研究所蔵)

②友禅染

- 薔薇花亀甲繫文様小袖(京都国立博物館蔵)
- 扇面散菊薊文様小袖(奈良県立美術館蔵)
- 御簾几帳秋草文様小袖(東京国立博物館蔵)

③夏の衣装

- 流水紅葉文様帷子(京都府立総合資料館蔵)
- 雨中秋野鷹狩文様帷子(奈良県立美術館蔵)
- 東ね花文様小袖(サントリー美術館蔵)

④武家と能楽の衣装

- 流水蛇籠草花文様小袖(大阪市立博物館蔵)

企画展
藍のよそおい
 2000年
 4月18日(火)
 5月21日(日)
 月曜日休館

関連行事

記念講演会「藍の歴史」
 日 時 5月7日(日)午後1時30分～午後3時
 講 師 長崎 巖氏(東京国立博物館染織室長)
 会 場 文化の森イベントホール(入場無料)

体験学習「藍染をしよう」
 日 時 4月23日(日)午前10時～午後12時
 講 師 船井由美子氏(会場館長学芸員)
 会 場 佐野町歴史民俗資料館・入形浄瑠璃芝居資料館
 県立博物館で4月13日(木)まで募集します。

部門展示「くらしの中の藍染—服蔵コレクション—」
 日 時 3月29日(水)～5月28日(日)
 会 場 常設展部門展示室(常設展観覧券が必要です)

企画展展示期間
 日 時 4月30日(日)午後2時～午後3時
 5月4日(木)午後2時～午後3時
 講 師 当館学芸員
 会 場 企画展示室(企画展観覧券が必要です)
 作品の見どころを分かりやすく解説します。

文化の森総合公園
徳島県立博物館
 〒770-8070 徳島市八万町1丁目
 TEL: 087-821-6000
 FAX: 087-821-6000

左卍紋入井桁緋入熨斗目(徳島市立德島城博物館蔵)
 柳と流水草花文様繡箔(彦根城博物館蔵)

⑤実用のきもの

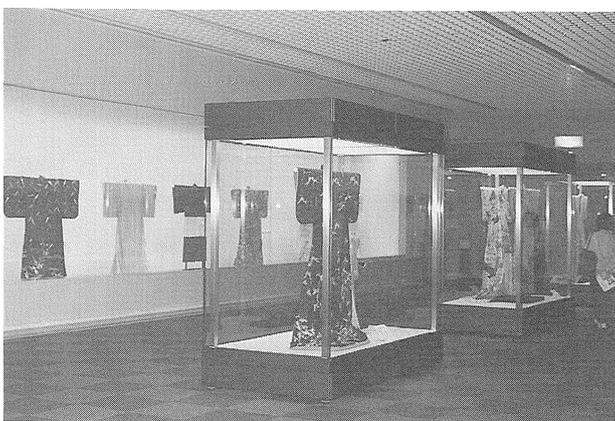
- 剣酸醬紋付看板(東京国立博物館蔵)
- 鶴丸紋夜着(個人蔵)

●観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

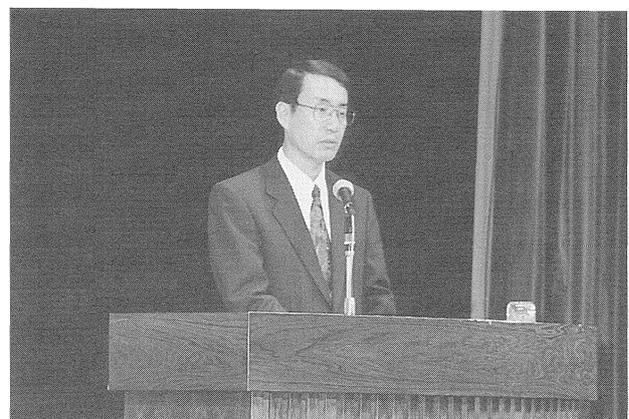
●期間中の観覧者数 3,039人

●企画展関連行事

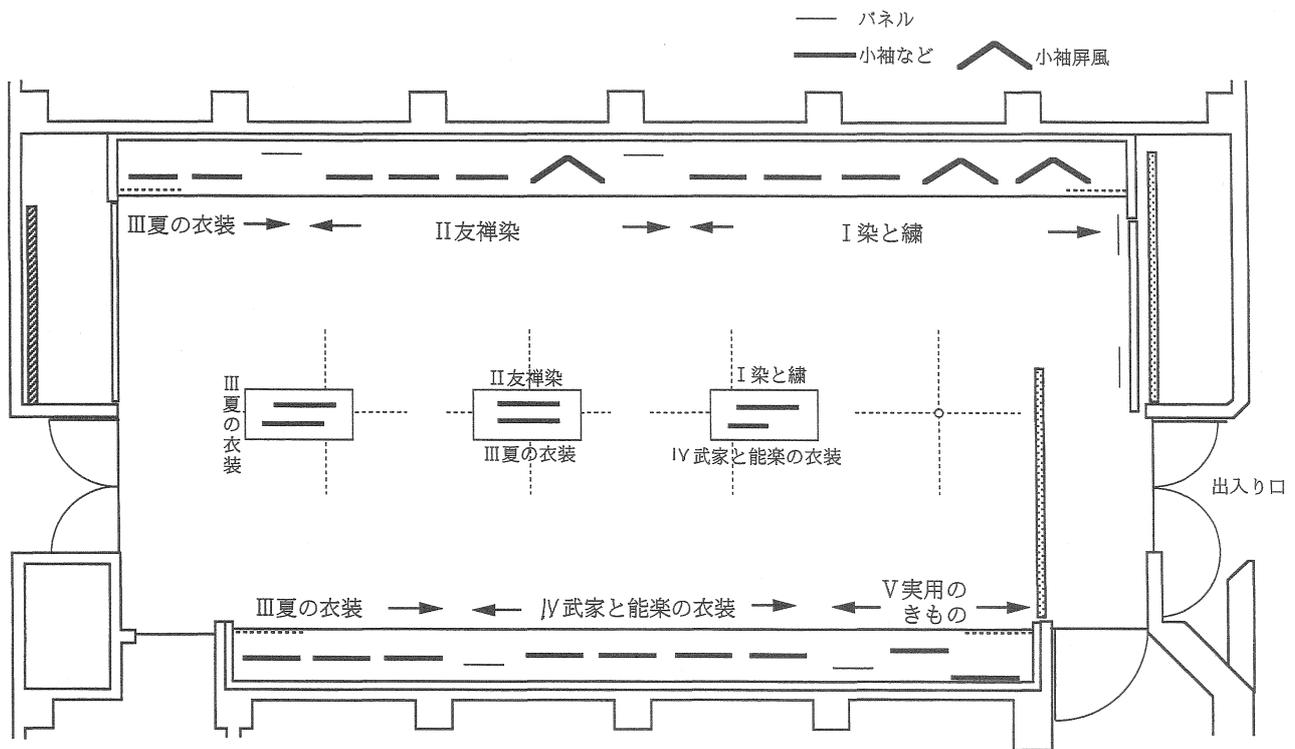
- ①記念講演会 5月7日(日) 13:30～15:00
 講師:長崎 巖氏(東京国立博物館染織室長)



企画展「藍のよそおい」の会場



企画展「藍のよそおい」記念講演会(講師は長崎 巖氏)



演題：藍の歴史

会場：文化の森イベントホール

入場者：89人

②体験学習「藍染めをしよう」

4月23日(日) 参加者25人

③企画展解説

第1回：4月30日(日) 参加者25人

第2回：5月4日(木) 参加者38人

(2) 第2回企画展「さよなら20世紀—カメラがとらえた日本の100年」

人類の歴史の中で20世紀ほど激動に満ちた時代はない。日本にとって20世紀前半の50年は戦争の時代であり、後半の50年は、高度成長により経済大国となった一方で、環境問題をはじめ様々な問題を露出させた時代だったと言える。こうした歴史をふりかえる時、写真は貴重な歴史の「証人」となる。幾多の言葉を並べるよりも、1枚の写真を見つめることで、私たちの脳裏にはその時代背景が鮮やかに浮かび上がってくる。

本展では、こうした写真資料を通して私たち日本人にとっての20世紀という時代を改めて見つめなおした。

なお、本展は文化の森開園10周年記念事業の一環として、21世紀館が主体となって開催した。

●期間 平成12年6月1日(木)～7月9日(日)

●主催 徳島県立21世紀館・徳島県立博物館・毎日新

聞社

●後援 文化庁・(社)日本写真協会・日本写真家協会・日本報道写真連盟

●会場 21世紀館多目的活動室・博物館企画展示室・近代美術館ギャラリー

●展示内容

・明治、大正、昭和、平成の4時代の写真作品および資料約350点

・CD-ROMに収められた写真約850点

・クラシックカメラ25点

・インターネットを通じて、毎日フォトバンクにある20万枚の写真にアクセス

・大型液晶テレビでの上映

●観覧料 無料

●期間中の観覧者 6,745人

(3) 第3回企画展「侵入者たち—外国からやってきた生きものたちの光と影—」

数年前に、日本には生育していないセアカゴケグモが関西地方で見つかり、毒グモ騒ぎがおこった。また、20年も前に鳴門市で見つかりナルトサワギクとよばれていた植物の正体が、昨年ようやく明らかになった。南の島である奄美大島では、日本では北海道にしか分布していないイワヨモギが見つかったが、道路ののり面の緑化のためにふきつけた外国産の種子に混じていたことがわかってきた。

この企画展では、こうした私たち人間の活動にともなって外国からやってきて、もともとの生育地とは違う場所で広がっている生きもの(侵入者たち)にスポットをあて、その素顔を紹介した。ブラックバスの問題など身近な生きもののお話が、関心が高かった。

- 期間 平成12年7月18日(火)～9月10日(日)
- 会場 博物館企画展示室
- 展示構成と主な展示資料

①侵入者たちの素顔

侵入者とは
 侵入方法
 侵入者たちのくらす場所
 侵入者たちの移り変わり

②いろいろな侵入者たち

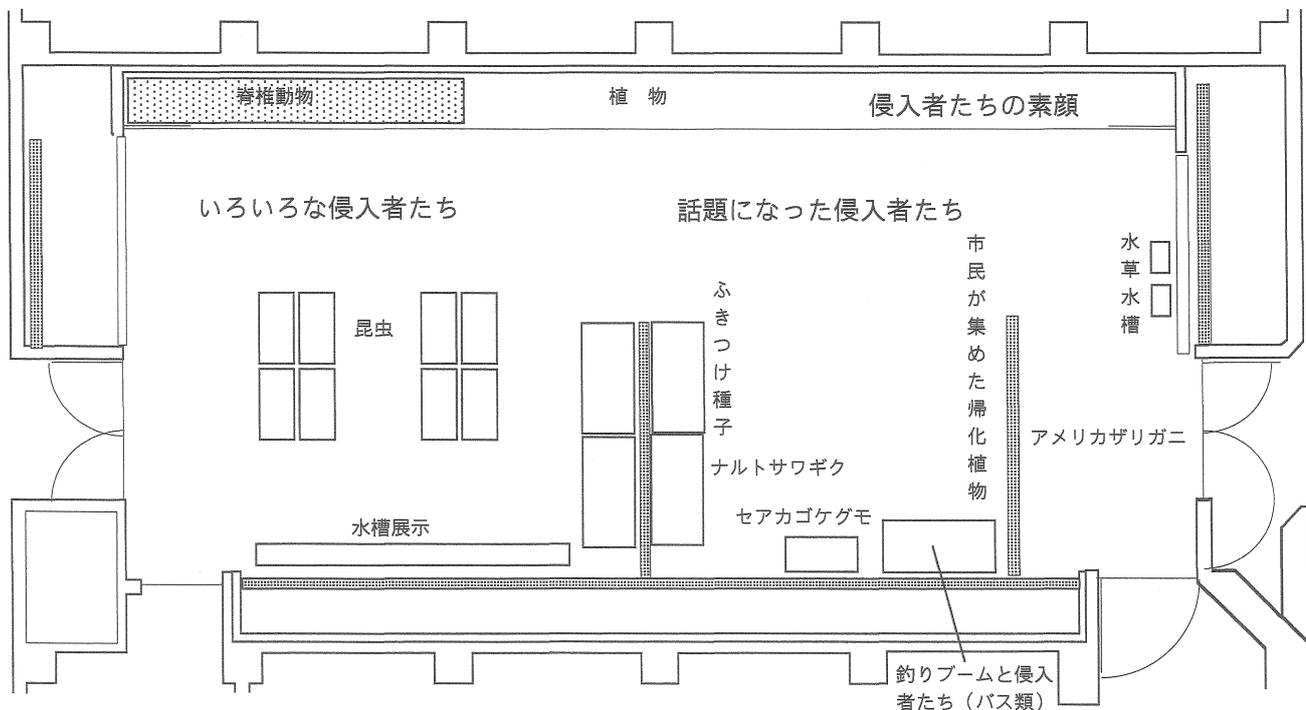
植物 (ヒガンバナ、セイタカアワダチソウほか)
 脊椎動物 (ソウギョ、カダヤシほか)
 昆虫 (バナナセセリ、オオモンシロチョウほか)
 昆虫以外の無脊椎動物 (スクミリングカイほか)

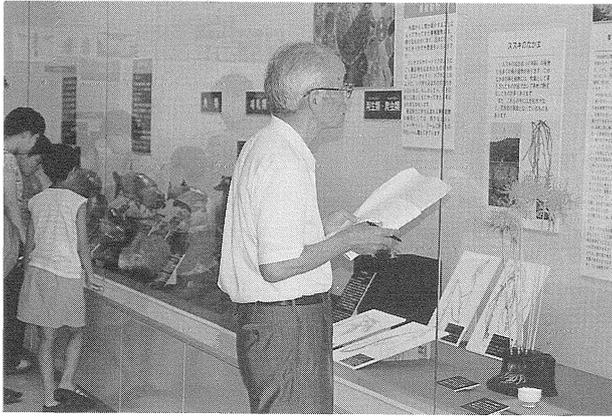
③話題になった侵入者たち

同定まで20年かかったナルトサワギク
 南の島に北の植物が (キクタニギク、イワヨモギ)
 釣りブームと侵入者たち (オオクチバス、ブルーギル)
 毒グモ騒動 (セアカゴケグモ)
 市民が集めた帰化植物
 ●観覧料 一般200円/高校・大学生100円/小・中学生50円



- 期間中の観覧者数 7,847人
- 企画展関連行事
- ①野外自然かんさつ「帰化生物をさがそう」
 第1回：4月30日(日) 徳島市 参加者8人





企画展「侵入者たち」の会場



企画展「侵入者たち」展示解説

第2回：5月28日(日) 鳴門市 参加者10人

第3回：7月30日(日) 徳島市 参加者51人

講師：西川喜朗氏(追手門学院大学教授・元日本蜘蛛学会会長)

②展示解説

第1回：7月23日(日) 参加者41人

第2回：8月6日(日) 参加者39人

(4) 第4回企画展「世紀末大博覧会」

この企画展は、文化の森総合公園開園10周年記念企画展として開催した。博物館が中心になって企画し、文化の森にある図書館・博物館・近代美術館・文書館・21世紀館の担当者による実行委員会を組織して準備を進め、開催に至ったものである。

文化の森の開園10周年にあたる2000年は、ちょうど20世紀最後の年であり、同時に21世紀への助走の年でもあった。時代の転換が意識されたり、不安感と期待感が交錯する世相を踏まえ、歴史のなかの転換期文化や20世紀の歴史・文化、さらには未来イメージを取り上げ、全体として「世紀末」と「新世紀」の意味を考えるものとして構成した。多彩な内容となったため、かえって年齢を超えた幅広い層の関心と呼ぶことがで

き、記念事業にふさわしいものとなった。

●主催 徳島県立図書館・博物館・近代美術館・文書館・21世紀館

●期間 平成12年10月20日(金)～11月26日(日)

●会場 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室・近代美術館ギャラリー

●展示構成と主な展示資料

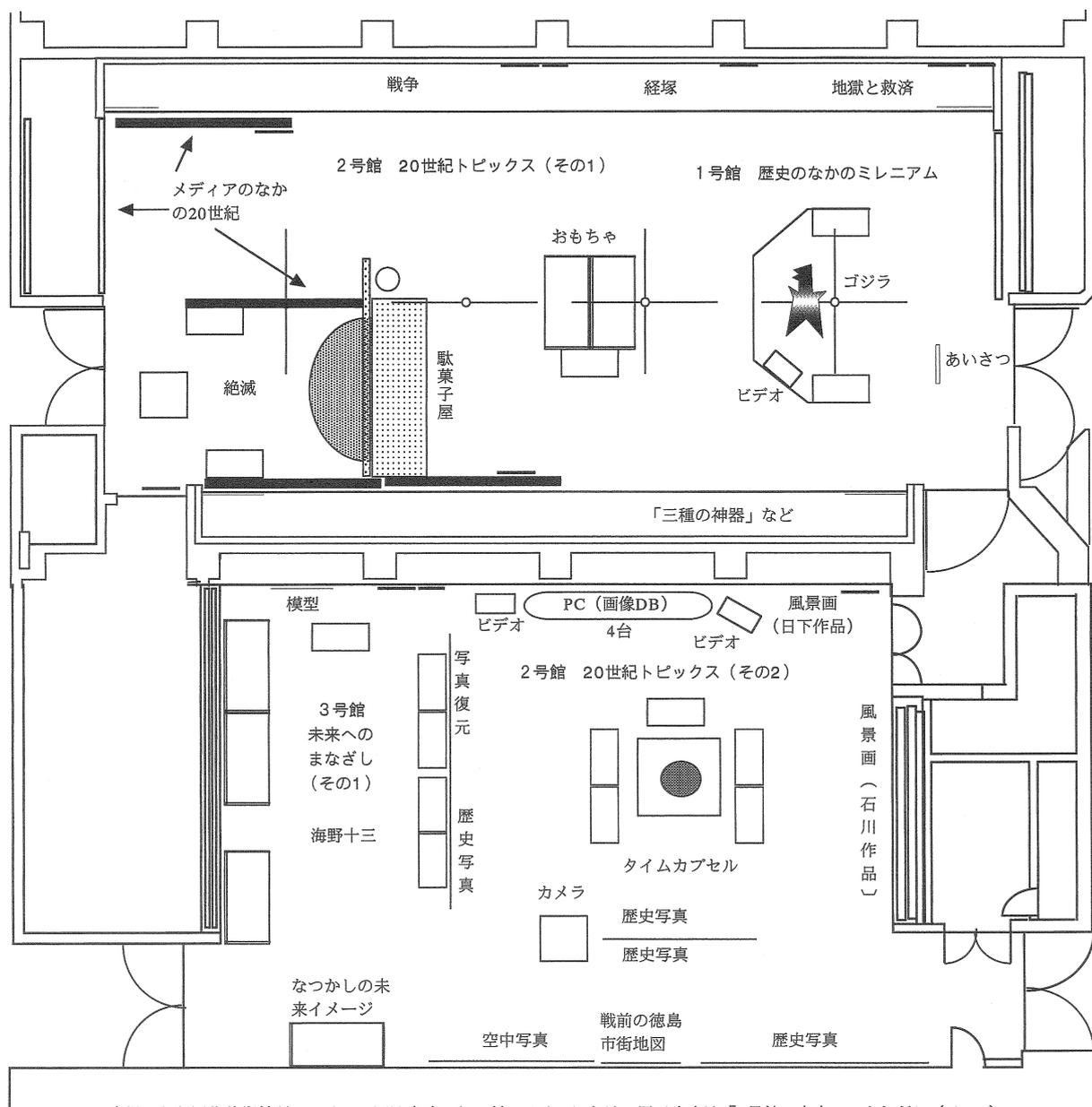
①歴史のなかのミレニウム―末法の精神誌

- ・地獄と救済
地獄絵図(高松市歴史資料館蔵)
聖衆来迎図(願勝寺蔵)
- ・祈りのタイムカプセル―経塚
大山寺経塚出土経筒(大山寺蔵)
滝の宮経塚出土品(美馬町教育委員会蔵)

②20世紀トピックス

- a. メディアのなかの20世紀
 - ・各種新聞(徳島県立文書館蔵)
- b. 戦争と危機
 - ・戦争の世紀
アジア太平洋戦争関係資料(当館蔵)
 - ・ゴジラは語る
ゴジラ映画関係資料(東宝映像美術蔵)
- c. 「豊かさ」の光と陰
 - ・身近なモノの移り変わり

●関連イベントもいっぱい●	
◎ことし最大の秋の祭典「つばきまつり」 11月 10:30(日) 14:30～15:30 会場 近代美術館中ホール 主催 徳島県立図書館・博物館	◎展示解説 11月 11:30(日) 14:30～15:30 会場 近代美術館中ホール 主催 徳島県立図書館・博物館
◎記念講演会 11月 11:30(日) 14:30～15:30 会場 文書館ホール(徳島県立図書館) 講師 西川喜朗氏(追手門学院大学教授) 対象 無料(中学生以上) 申込 徳島県立図書館 TEL: 089-648-3390 申込先着順(申込人数に限り)	◎観覧券 11月 11:30(日) 14:30～15:30 会場 近代美術館中ホール 対象 無料(中学生以上) 申込 徳島県立図書館 TEL: 089-648-3390 申込先着順(申込人数に限り)



※会場のうち近代美術館ギャラリーの図は省略した。ギャラリーにおける展示内容は「3号館 未来へのまなざし (その2)」である。

家電製品 (芝原生活文化研究所蔵)

戦後のおもちゃ各種 (日本玩具資料館蔵)

・絶滅

コウノトリ、ニホンカワウソ等生物の標本 (当館蔵)

d. 徳島の20世紀

・徳島の風景

徳島県関係歴史写真 (徳島県立文書館蔵)

徳島県出身画家による風景画 (徳島県立近代美術館蔵)

映像資料 (四国放送蔵)

・21世紀に残したい「私の宝もの」

開園10周年記念タイムカプセルおよび収納資料

(当館蔵)

③未来へのまなざし

・海野十三が描いた未来

海野十三著作物 (徳島県立図書館蔵)

海野十三関係資料 (海野十三の会蔵)

・こどもたちの21世紀像

徳島県立近代美術館ワークショップ作品

●観覧料 無料

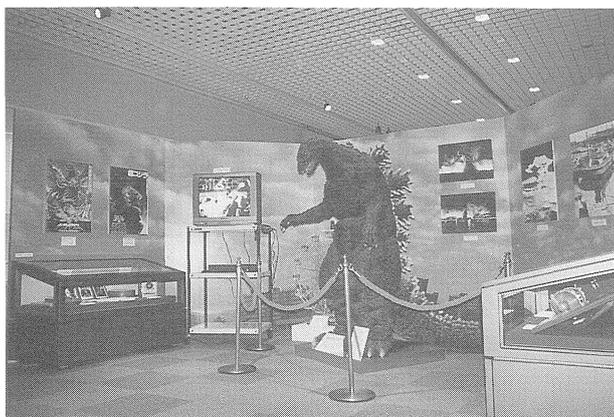
●観覧者数 15,784人

●展示解説

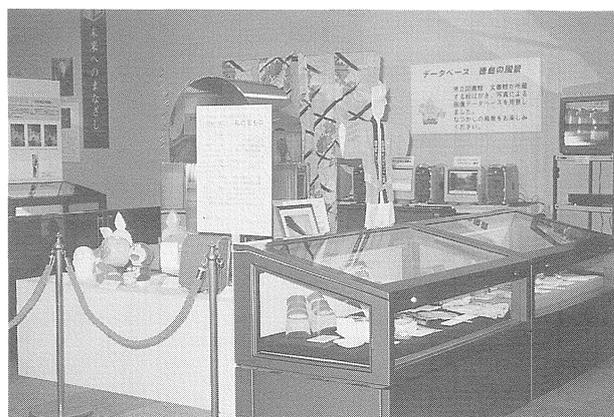
第1回: 11月3日(金) 参加者30人

第2回: 11月12日(日) 参加者20人

●タイムカプセルの製作



企画展「世紀末大博覧会」の会場（ゴジラコーナー）



企画展「世紀末大博覧会」の会場（タイムカプセルコーナー）

文化の森開園10周年を記念してタイムカプセルをつくらうということになった。中に収める資料は「21世紀に残したい私の宝もの」として、20世紀という時代をよく物語る身の回りの衣・食・住・娯楽などに関する品物を県民から公募した。集まった83件の資料は企画展「世紀末大博覧会」の中で1コーナーをつくって展示した。

これらの資料は、企画展終了後にタイムカプセルに収めて博物館収蔵庫で保管しており、今後10周年ごとの記念日に開封して展示することになっている。

●他館主催の関連行事

会期中に、本企画展を共催した博物館以外の館が独自の関連行事を開催したので、参考のため概要を記録しておく。

①講演会（図書館主催）

日時：11月19日（日）10：00～12：00

講師：向井万起男氏（慶應義塾大学医学部助教授、日本人初の女性宇宙飛行士向井千明氏の夫）

演題：女房が宇宙を飛んだ

会場：文化の森イベントホール



企画展「世紀末大博覧会」の会場（駄菓子屋の復元）

②「こどもたちの21世紀像」ギャラリートーク（近代美術館主催）

日時：10月29日（日）14：00～15：30

講師：居上真人氏（彫刻家）

会場：近代美術館ギャラリー

③映画会「映画で見る20世紀」（21世紀館主催）

日時：10月28日（土）・29日（日）

11月4日（土）・5日（日）・11日（土）・

12日（日）・25日（土）・26日（日）

いずれも14：00から

会場：文化の森イベントホール

3. 特別陳列

(1) 博物館写生大会作品展

博物館開館10周年記念の行事として、11月3～5日に友の会と共催で写生大会を実施したが、その全作品330点の展示会を行った。

各学年ごとに3点ずつの館長賞および友の会会長賞を選定し、賞品を贈呈した。これらの受賞作品は、作品展終了後、更に2月25日まで常設展示室の描かれた展示物の近くに掲示した。

●期間 平成12年12月5日（火）～12月24日（日）

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 無料

●期間中の観覧者数 1,850人

(2) 2000年度徳島県同和問題啓発展

これまで、文化の森5館と徳島県教育委員会（生涯学習課）との共催で、年2回の同和問題啓発展（同和問題啓発標語ポスター入選作品展および識字学級生の作品展）を行ってきた。2000年は国際識字年10年目の節目に当たることから、徳島県および県教育委員会関

係各課も加わり、1回にまとめ、規模を拡大して実施した。

- 主催 徳島県・徳島県教育委員会
- 期間 平成12年8月26日(土)～9月8日(金)
- 会場 近代美術館ギャラリー・21世紀館多目的活動室・ミニシアター(ビデオ上映)
- 期間中の入場者数 1,561人

(3) 「関西ミュージアム・メッセ2000」への出展

本展示会が平成12年5月24日(水)～27日(土)、関西ミュージアム・メッセ2000実行委員会の主催により大阪国際会議場で開催された。

この展示会は97年に次いで2回目だが、関西広域連携協議会の「文化・観光事業」として位置づけられていることから、徳島県に対しても強い出展要請があり、結局、文化の森の博物館と近代美術館が共同で1ブースの展示を行った。会期中は、博物館、美術館および生涯学習課の職員が交代で立ち会いを行った。

なお、出展に要する費用は生涯学習課が負担した。

●博物館の展示資料

- 文楽着付け人形(お弓、お鶴) 2体
- 人形頭 3点
- 藍染め着物 1点
- 藍染め関連小物 4点

4. 常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から館内での検討を行ってきた(年報7号参照)。そして、開館10周年日に当たる12年度にリニューアル・オープンする計画での予算要求を行ったが、厳しい財政状況等もあって、事業化は認められなかった。

そこで、10年度以降は、車椅子使用者の視点から現行展示のチェックを行うなど、現行展示の問題点の把握に努める一方、常設展更新計画(案)の練り直しによる事業規模縮小の可能性についても検討し、できるだけ早い時期での常設展更新が実現するよう、その方途を探っている。

また、最近展示のリニューアルを行った先進館に対する調査も継続してきており、12年度には次の調査を行った。

新潟県立歴史博物館：新たな展示手法の研究

5. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

- 第1回企画展図録「藍のよそおい」
2000年3月31日発行、A4判52ページ(35カラーページ)、700部+友の会増刷分300部
- 第3回企画展解説書「身のまわりの侵入者たち」
2000年7月18日発行、A5判48ページ(全ページカラー)、700部+友の会増刷分300部
- 第4回企画展図録「世紀末大博覧会公式ガイドブック」
2000年10月20日発行、A4判32ページ(全ページカラー)、900部+友の会増刷分300部

Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じて館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長を含む14名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

平成12年度は、次の3つの課題調査を行った。

(1) 復元銅鐸の製作に関する基礎調査

銅鐸は弥生時代を代表する青銅器であるが、使用法をはじめとして、製作技術などについて謎の多い遺物でもある。徳島県からは40個あまりが出土しており、その出土数の多さは全国的にも注目を集めている。

博物館では、調査研究テーマのひとつとして銅鐸をはじめとする弥生時代青銅器の分布と変遷に関する研究を掲げ、資料収集方針としても銅鐸およびその製作

技法に関する資料の収集に努力してきた。銅鐸の製作技法の研究についても、X線透過撮影なども応用して様々な視点から調査を続けている。

本課題調査では、これまでの様々な分野での銅鐸の復元製作に関する研究成果を踏まえ、銅鐸復元の第一人者である金属工芸家・小泉武寛氏の協力を仰ぎながら、復元銅鐸の製作工程を映像に記録することを中心とし、製作技法についても検討を行った。

●調査メンバー

博物館職員：魚島純一（考古・保存科学：調査主导者）、天羽利夫（館長・考古）、高島芳弘（考古）
館外協力者：小泉武寛（金属工芸家）

●調査の概要

①復元銅鐸の製作

小泉氏の協力を得て、同氏の工房（京都）で本調査のために復元銅鐸を製作していただき、鑄造技術等の銅鐸製作に関する指導を受けた。

②銅鐸製作工程の記録

復元銅鐸の製作工程のうち主たる工程を写真やデジタルビデオなどの映像として記録した。

③銅鐸製作工程の検討

小泉氏を徳島に招き、実物の銅鐸観察を行いながら銅鐸の製作技法について検討した。

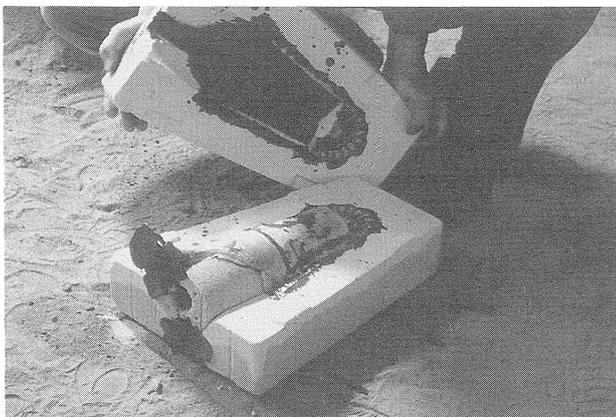
(2) 伊島の自然とくらし

伊島は、県内でも数少ない人が住む離島であり、古い漁村の形態を今も残している。また、ササユリの生息地としてよく知られている。しかし、ケブカアキノタムラソウといったこの島にしかない貴重な植物についてはあまり知られていない。特に、島の中央部の湿地は古くは水田として利用されていたが、現在では放棄されて海浜性の湿地に変わり、絶滅危惧動植物の生息地となっている。

伊島とその周辺の島々の自然や歴史、民俗に関する最近の調査は行われておらず、古い記録しかない。そこで博物館では2年計画で様々な分野での総合調査を行うことにした。

●調査メンバー

博物館学芸員：小川 誠（植物：調査主导者）、大原賢二・佐藤陽一・田辺 力（動物）、茨木 靖（植物）、中尾賢一（地学）、高島芳弘・魚島純一（考



復元銅鐸の製作

古)、長谷川賢二(歴史)、庄武憲子(民俗)
館外調査員:田淵武樹(徳島県 RDB 植物調査員)、
吉田一夫(市場町職員)

●調査の概要および結果

12年度は、本調査の1年目として、次のような分担で伊島全体の概要を把握することを目標に調査を行った。12年度の調査では島の生物相の概要が明らかになり、特に植物では、島の中央部の湿地に県内で2産地目になる貴重な植物が見いだされるなどの成果があった。

小川 誠・茨木 靖・田淵武樹:伊島の植物相、特にケブカアキノタムラソウについて
大原賢二・吉田一夫:伊島の湿地および水系に生息するトンボ類の幼虫・成虫調査
佐藤陽一:淡水魚・浅海魚調査
田辺 力:伊島のヤスデ類について
中尾賢一:伊島の地質と貝類について
高島芳弘・魚島純一:伊島および舞子島の遺跡の所在調査
長谷川賢二:伊島の歴史的な位置づけについて(空伝承と埋経を中心に)
庄武憲子:伊島の民俗風習について

(3) 徳島県の半翅類調査

徳島県の昆虫相解明のために、外部の研究者にも参加してもらいながら、主要な分類群の数年間にわたる継続的な分布調査を行うことを企画した。これは徳島県が計画した「徳島県版レッドデータブック」への掲載種の選定作業や、開発計画等に関係した環境調査などにおいて情報の提供を求められても、蝶類や甲虫目の一部のグループおよびトンボ目を除けば、分布や生態等に関する情報が極めて断片的で少なく、県内の昆虫相の正確な把握はほとんど不可能であったためである。

その最初として、昆虫の中でもセミやカメムシなど一般にもよく知られた種を多く含む群でありながら、ほとんど記録のない半翅類(同翅目、異翅目)を選び、平成12年度からの2年計画で本課題調査をスタートさせた。半翅類は甲虫目、鱗翅目、膜翅目、双翅目に次いで種数の多いグループであるが、県単位で見るとその調査はほとんど進んでいない。大型の半翅類であるセミ科さえも分布状況の把握は十分とはいえない。また半翅類の中でも水生のグループ(異翅目の一部)は、タガメやコオイムシなど全国的に個体数の減少している種も多く含まれ、それらの保護のためにも現時点での調査が急がれるグループである。

12年度は8月にセミ類(特にエゾゼミ類)の調査を、

そして10~11月に水生半翅類を中心とした調査を実施した。

●調査メンバー

博物館学芸員:大原賢二(動物)
館外調査者:林 正美(埼玉大学教育学部)

●12年度調査の成果

①徳島県のエゾゼミ類

8月8~10日、剣山山系でエゾゼミ属の調査を行った。この調査では徳島県で正確な記録のないアカエゾゼミの分布を確認することと、過去に記録されているものの、その実態がほとんどつかめていないキュウシュウエゾゼミを再確認すること、あわせてコエゾゼミやエゾゼミの詳細な分布状況を把握することを目的とした。日数が限られていたため剣山周辺だけの調査しか行えなかったが、徳島県初記録となるアカエゾゼミを採集し、祖谷溪での大まかな分布状況を知ることができた。一方、キュウシュウエゾゼミは天候に恵まれなかったこともあって、平井雅男氏によって記録されていた東祖谷山村深淵~落合峠周辺での再確認はできなかった。コエゾゼミ、エゾゼミについては、採集および鳴き声の確認によって剣山周辺での分布の概要を知ることができた(これらの記録は博物館研究報告に投稿)。

②徳島県の水生半翅類

10月4~6日、三好郡池田町黒沢湿原、脇町、徳島市内、海部郡穴喰町、海部町、海南町、鳴門市などの淡水湿地、ため池を中心に調査を行った。また、その後、板野郡および鴨島町内の池も調査した。主な調査地の概要は次のとおりである。

- ・黒沢湿原は、三好郡池田町漆川にある中・低層湿原である。現在は池田町の天然記念物に指定されているが、以前はかなりの部分が水田として利用されていた。その後、放置され現在に至っている。湿地内には解放水面はほとんどなく、最上流部にオヒルムシロの見られる狭い池があるだけである。下流部にある池は人工的に作られたものであり、水生植物・水生昆虫ともに少ない。
- ・鳴門市撫養町齊田、三好郡三加茂町鍛冶屋敷は農業用水のため池で、コンクリートで護岸されている。海部町、海南町の調査地点は休耕田および放置された養魚池で、ハッチョウトンボの発生地となっている。
- ・板野町のジョガマル池は一面ノタヌキモに覆われ、ジュンサイの大群落も見られる。池の岸は緩斜面となり、水生昆虫の種数・個体数とも非常に多く、調査した中では最も豊かな自然を残した池である。
- ・これらの地点での調査の結果、12科31種の水生半翅

類を確認した。このうち12種は四国からの初記録となる（これらの記録は博物館研究報告に投稿）。

2. 分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

②日本産シュモクバエ科の生活史の調査

昨年と同様に3月下旬に石垣島でシュモクバエ科の生活史の調査を行った。非常に天候が悪く、めぼしい成果は得られなかった。

③アサギマダラの移動調査

渡りをするチョウとして有名になったアサギマダラの移動について、マーキング等の調査を行った。協力者も増え、四国への渡りのルートとして紀伊半島や淡路島を経由するコースがあることが示唆されたほか、徳島県から高知県室戸岬への移動も複数確認されるなど、本格的に調査がスタートできた年となった。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①県内の淡水魚類相調査

県下の淡水魚類相調査の一環として、県下各地で調査を行った。この調査の成果の一部は、県環境政策課が平成7年度（淡水魚分科会は8年度）から12年度にかけて実施した県版レッドデータブック掲載種選定のために活用された。

②徳島県メダカ生息調査

平成8年度からの継続として、県内のメダカの生息調査を多数の県民の参加を得て行った（調査の目的や方法の詳細、経過については年報8号を参照のこと）。

なお、この調査は当初、11年度で終了して12年度に成果を取りまとめる予定であったが、生息未確認地域におけるデータを充実させるため、12年度は館員のみによる現地での補足調査を実施した。

田辺 力（動物・無脊椎動物）

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を行った。

②日本産ヤスデ類の形態学および分類学的研究

ババヤスデ属における形態と生殖隔離の関係について報告した。

③インドネシア産ヤスデ類相の調査

文部省科学研究費による海外学術調査の研究協力者として、ジャワ島、スラウェシ島、ロンボク島でヤスデ類相を調査し、日本産ヤスデ類相と比較を行った。

小川 誠（植物）

①相生町の植物相調査

平成12年度阿波学会の調査の一環として、相生町の植物相調査を行った（赤澤時之、木村晴夫氏らと共同）。

②博物館の情報提供におけるインターネットの利用に関する技術的研究

市販データベースソフトであるファイルメーカーProを使い、標本データベースや植物写真データベースを公開した。

③ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、京都府と栃木県での分布調査を行った。

茨木 靖（植物）

①ススキ属の比較研究

国内外の博物館、研究機関より世界各地のススキ属の標本を借用し、その異同、分布などに関する調査を行った。

②ナルトオウギに関する基礎的研究

館蔵の種子を用いて、温度や日長などの条件を変えて発芽特性などに関する調査を行った。

③阿南市鍛冶ヶ峰周辺において植物相の調査を行った。

両角芳郎（地学）

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するノストセラス科アンモナイトの分類学的検討を行った。また、かつて研究して記載・図示した個人標本で、その後に公的博物館で保管されている標本について調べ、研究報告に投稿した。

②勝浦川流域下部白亜系産化石に関する研究

羽ノ浦層から産出した鞘形類の分類学的検討を行った。

中尾賢一（地学）

①沖積平野の堆積学的・古生物学的研究

徳島平野南部の沖積層から採集された貝化石を他地域や貝塚の貝と比較した。また、現在の貝類相と比較するため、汽水域の貝類の調査も併せて行った。

②第二瀬戸内累層群の堆積環境と貝化石相の調査

長崎県と大分県で化石の産状と堆積相の観察を行い、堆積環境と貝化石の関連を調べた。

③鳴門海峡海底産化石の調査

鳴門海峡海底産の更新世化石について、産出場所や化石の内訳を調べた。

④相生町の地質調査

平成12年度阿波学会の調査の一環として、相生町

の地質と産出する貝化石の調査を行った（香西武、石田啓祐氏らと共同）。

天羽利夫（考古）

①薩摩駅の所在地に関する調査

平城宮出土木簡に記載されている「薩摩駅」の所在については、県南部の海岸沿いが想定されるものの、地名が現存しておらず不明である。12年度は、「海部町史」に記載の「芝北山薬師如来御由来記」を手がかりとして、海部町芝周辺の現地聞き取り調査を実施した。

②徳島県考古学史について

徳島県における考古学研究の歩みを纏めるための準備作業として、文献目録の作成を進めた。

高島芳弘（考古）

①縄文時代の石鏃の形態の変異に関する調査

鮎川遺跡採集の石鏃の図化を行い、基礎資料の蓄積を行った。あわせて石器石材の確認を行った。

②石井町前山古墳群の調査

墳丘及び内部主体の形態的検討と、墳丘から出土した壺を中心に前山1号墳の時期の検討を行った。

魚島純一（保存科学・考古）

①県内出土銅鐸の調査

県内出土銅鐸のX線透過撮影や蛍光X線分析などを行った。特にX線透過撮影によって得られるX線画像から銅鐸の製作時の痕跡などを読みとることによって、その製作技法の復元が可能であるかを検討した。

②臭化メチル燻蒸に替わる燻蒸法の研究

燻蒸剤として使用している臭化メチルの使用禁止を2005年に控え、臭化メチル燻蒸に替わる燻蒸法の検討を行った。特に徳島県教育委員会若手職員海外派遣研修としてアメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルス市のゲティ保存研究所(The Getty Conservation Institute)の前川信氏を訪ね、窒素を使った簡易な燻蒸装置(バルーン)を用いた博物館資料の燻蒸に関する研修を受けた。

③遺跡・遺構の保存・活用に関する調査

鳴門市西山谷2号墳の石室移築工事に立ち会い、作業の工程を写真とビデオで記録して遺跡・遺構の保存方法に関する調査を行った。また、愛媛県大西町妙見山古墳の保存施設等を訪ね、発掘調査終了後の遺跡・遺構の保存と活用の現状についても調査した。

④古い撮影済み未現像フィルムからの画像取り出し

富士フィルム(株)足柄研究所瀬岡良雄氏らの協力を得て、28年前に撮影済みで現像処理を行っていないカラーフィルムの特殊な現像処理、画像処理等

を行い、フィルムからの画像の取り出しに成功した。

得られた画像の一部は企画展「世紀末大博覧会」において「よみがえったあの日の記憶—28年前の映像」として展示した。

⑤外部依頼による調査、保存処理等

- ・徳島県教育委員会文化財課の依頼を受け、県指定文化財の保管場所などの環境調査を実施した。
- ・高知市立自由民権記念館の依頼を受け、火災時の消火活動によって水浸した文書資料の真空凍結乾燥処理を実施した。
- ・香川県埋蔵文化財調査センター、高知県埋蔵文化財センター、松山市埋蔵文化財センターなどの依頼を受け、出土文化財の蛍光X線分析による材質調査を行った。
- ・県内博物館施設、図書館などの文化財保管施設からの依頼を受け、古文書、仏像などの燻蒸処理を多数実施した。

山川浩實（歴史）

①関ヶ原合戦に関する現地調査

関ヶ原古戦場で東西両軍の兵の配置をはじめ、石田三成・徳川家康陣地や関連の遺跡を調査した。併せて関ヶ原合戦に関係した武器・武具などの調査を行った。

②長篠合戦に関する現地調査

長篠古戦場で武田勝頼、織田信長・徳川家康連合軍の兵の配置をはじめ、武田、織田・徳川連合軍の陣地や関連の遺跡を調査した。併せて長篠合戦に関係した武器・武具などの調査を行った。

③米軍爆撃映像フィルムの調査

米国国立公文書館第2分館(ナショナルカレッジパーク)を訪問し、收藏される対日戦略爆撃映像フィルムを調査した。その他連合国軍が日本占領時に撮影した日本国内の映像フィルムや徳島に関係した映像フィルムを調査した。

長谷川賢二（歴史）

①天正期阿波における法華騒動の研究

法華騒動に関する史料のうち、とくに軍記の記述の性格と意図を検討し、従来の研究に欠落した史料批判を踏まえた追究を試みた。

②戦前期徳島県博物館史の調査

主として1930年代の徳島県において見られた博物館構想について、その実態を調査した。

③遍路道(平等寺～薬王寺)の調査

徳島県教育委員会による歴史の道調査に参加し、上記区間の遍路道のルート復元、周辺文化財の調査を行った。

④中世期書写大般若経の調査

神山町史編集委員会による勸善寺所蔵大般若経調査に参加し、写真をもとに奥書の検討を行った。

⑤被差別部落史に関する調査

徳島県教育委員会による徳島県同和地区民俗文化史調査に参加し（徳島市域を分担）、徳島県部落解放運動史について検討した。また、中世身分制史研究の現状や基礎的な史料の検討を行い、高校用同和教育資料『じんけん』2001年度版に反映させた。

庄武憲子（民俗）

①神山町の暮らしについての調査

神山町史編纂にあたって、専門委員として神山町での山、川、里での暮らしぶりについて調査を行った。

②徳島県内の婚礼、葬送儀礼の調査

県内で行われてきた婚礼および葬送儀礼について、各市町村での事例収集と比較を行った。

大橋俊雄（美術工芸）

①徳島藩にかかわる美術作品の調査研究

阿波の絵師、工芸職人の作品と史料について所在調査を行った。

②藍染の研究

江戸時代の染織史における青色（藍）の用い方、技法などについて調べた。

③飯塚桃葉・谷田忠兵衛の研究

飯塚桃葉の作品の比較検討を行った。谷田忠兵衛の作品と文献資料を調査した。

3. 文部省科学研究費補助金による研究

- 基盤研究(A)：アジア熱帯地域における陸産無脊椎動物の多様性創出機構の解明（平成11～13年度）
研究代表者：片倉晴雄（北海道大学大学院理学研究科教授）

当館の研究協力者：田辺 力

- 基盤研究(B)一般(1)：博物館資料の保存環境としての木質空間の特質（平成11～13年度）
研究代表者：神庭信幸（東京国立博物館学芸部保存修復管理官）

当館の研究分担者：魚島純一

- 奨励研究(B)：ババヤステ属（ヤステ綱）の交尾器形態の進化機構の解明（平成12年度）
研究代表者：田辺 力

4. 他機関との共同研究

- (社)土木学会四国支部受託研究の共同研究：「正木ダムに係わる河川環境総合調査」（平成10～15年）
研究代表者：岡部健士（徳島大学工学部教授）
当館の共同研究員：佐藤陽一
- (財)河川環境管理財団の河川整備基金助成による共同研究：「河川下流域の周辺小水系における生物多様性の維持を目的としたビオトープネットワークの保全に関する研究」（平成10～12年）
研究代表者：村上仁士（徳島大学大学院工学研究科教授）
当館の共同研究員：佐藤陽一

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第12号

2001年3月31日発行、B5判170ページ、1,200部
（*は館外著者）

- 大原賢二・林 正美*：徳島県のエゾゼミ属（同翅目、セミ科）について. p. 1-6.
林 正美*・大原賢二：徳島県で確認された水生半翅類. p. 7-16.
大原賢二：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2000年）. p. 17-22.
清水孝昭*：愛媛県伊予市沿岸域の魚類目録. p. 23-108.
茨木 靖：ナルトオウギの発芽特性. p. 109-112.
中尾賢一：徳島平野南部、西須賀町の海成沖積層から得られた貝化石群とその¹⁴C年代. p. 113-130.
Morozumi, Y.: Change of repositories of some described and illustrated ammonites and bivalves from the Upper Cretaceous Izumi Group in Southwest Japan. p. 131-134.
橋本達也*：徳島における三角縁神獣鏡の新例と中国鏡. p. 135-170.

(2) 博物館ニュース “Culture Club” 欄記事

- 中尾賢一：鳴門海峡海底の化石. No. 39, p. 2-3.
高島芳弘：岩蔭遺跡の調査. No. 40, p. 2-3.
大原賢二：アサギマダラと四国. No. 41, p. 2-3.
亀井節夫：恐竜チタノサウルスのこと. No. 42, p. 2-3.

(3) 当館刊行物以外への掲載

（*印は館外の研究者）

＜動物＞

- 大原賢二・山本栄治 (2000. 3) 小田深山およびその周辺のハナアブ類. 小田深山の自然, II : 907-931.
- 大原賢二 (2000. 8) 徳島県のキュウシュウエゾゼミの記録. Cicada, 15 : 55-56.
- 大原賢二 (2000. 12) 皇居のハナアブ科. 国立科学博物館専報, (36) : 401-408.
- 佐藤陽一・上野輝彌* (2000. 3) 鳥取県国府町宮下の魚類化石: ミヤノシタサツパ *Sardinella miyanoshitensis*. 上野輝彌編, 鳥取県岩美郡国府町宮下産魚類化石目録, 鳥取県立博物館 : 9-11.
- 上月康則*・西岡健太郎*・村上仁士*・佐良家康*・佐藤陽一・福田 守*・倉田健悟* (2000. 5) かんがい期と非かんがい期におけるメダカの分布と用水路環境に関する考察. 平成12年度土木学会四国支部第6回技術研究発表会講演概要集 : 502-503.
- 佐藤陽一 (2000. 9) 四国の絶滅のおそれのある淡水魚. 四国生きものネットワークニュース&しずく, (8) : 4-5.
- 佐藤陽一・岡部健士* (2000. 10) ダム下流に生じた減水区間の魚類相が貧弱なのはなぜか? 2000年度日本魚類学会年会講演要旨 : 62.
- 佐藤陽一 (2000. 10) 魚の差別的名称. 2000年度日本魚類学会年会講演要旨 : 82.
- 佐藤陽一・瀬能 宏 (2000. 10) 学会への提言—標準和名提唱・変更の際してのガイドライン—. 2000年度日本魚類学会年会講演要旨 : 86.
- 上月康則*・佐藤陽一・村上仁士*・西岡健太郎*・倉田健悟*・佐良家康*・福田 守* (2000. 10) 都市近郊用水路網におけるメダカの生息環境要因に関する研究. 環境システム研究論文集 : 313-320.
- 佐藤陽一・岡部健士* (2000. 10) ダム設置河川における魚類相と環境特性—徳島県勝浦川における調査から—. 環境システム研究論文集 : 321-331.
- 佐藤陽一 (2000. 11) あわ博物誌この一品47: ニホンカワウソ. 読売新聞 (徳島版) 11月2日朝刊.
- Shinohara, G.*, Y. Sato and K. Matsuura* (2000. 12) Coastal fishes of Ishima Island, Tokushima, Japan. Memoirs of National Science Museum [Natural History Researches of the Region around Seto Inland Sea (II)], (33) : 175-186.
- 佐藤陽一 (2001. 3) さかな博士の吉野川魚図鑑 (連載第2回): ヨシノボリ. 四国三郎吉野川, 8 : 7.
- 佐藤陽一・岡部健士* (2001. 3) 魚類調査. 河川環境調査委員会編「河川環境調査勝浦川: 勝浦郡上勝町～勝浦町, 平成13年3月」, (社)土木学会 : 7章, 1-7.

- 佐藤陽一 (2001. 3) カライワシ目; ニシン目. 岡村 収・雨岡邦夫編「山溪カラー名鑑: 日本の海水魚, 第3版」, 山と溪谷社 : 67, 91-93.
- 田辺 力 (2000. 7) 書評: Checklist of the Millipeds of North and Middle America. Acta Arachnologica, 49 : 106.
- 田辺 力 (2001. 1) 多足類読本—ムカデとヤスデの生物学. 東海大学出版会, i-xi+178pp.
- Tanabe, T., H. Katakura* and S. F. Mawatari* (2001. 2) Morphological difference and reproductive isolation: morphometrics in the millipede *Parafontaria tonominea* and its allied forms. Biological Journal of the Linnean Society, 72 : 249-264.

＜植物＞

- 片山泰雄*・木内和美*・田淵武樹*・木下 覺*・木村晴夫*・赤澤時之*・小松研一*・真鍋邦男*・小川誠・水上敏夫* (2000. 3) 神山町の植物相. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告: 神山町」(阿波学会紀要46号), 徳島県立図書館 : 29-46.
- 茨木 靖 (2000. 7) 西表島固有イネ科水生植物イリオモテガヤ (*Chikusichloa brachyathera* Ohwi) の生育環境. 水草研究会会報, 70 : 20-21.

＜地学＞

- 石田啓祐*・小澤大成*・森永 宏*・橋本寿夫*・元山茂樹*・森江孝志*・中尾賢一・F. Hirsch*・香西武* (2000. 3) 徳島県神山町地域の秩父帯北帯・御荷鉾帯. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告: 神山町」(阿波学会紀要46号), 徳島県立図書館 : 1-12.
- 中尾賢一 (2000. 7) 瀬戸内海東部鳴門海峡海底産ナウマンゾウ臼歯化石の特徴. 地球科学, 54(4) : 252-256.
- 中尾賢一 (2000. 9) あわ博物誌—この逸品41; 42: 石鉄いん石; 自然金. 読売新聞 (徳島版) 9月7日; 9月14日朝刊.

＜考古＞

- 天羽利夫 (2000. 7) 開園10周年を迎えた徳島県文化の森総合公園. 博物館研究, 35(7) : 6-12.
- 天羽利夫 (2000. 7) 博物館の展望—魅力ある博物館の姿—. 岡山県教育委員会「教育時報」, 平成12年8月号 : 4-7.
- 天羽利夫 (2001. 1-3) 阿波圏—鳥居龍蔵; 勝瑞城館跡; カネガ谷遺跡と倭国の乱. 徳島新聞 1月20日; 2月17日; 3月17日朝刊.
- 高島芳弘 (2000. 9) あわ博物誌—この逸品43: 伝長者ヶ原銅鐸. 読売新聞 (徳島版) 9月28日朝刊.
- 魚島純一 (2000. 10) あわ博物誌—この逸品46: 若杉

山遺跡と辰砂. 読売新聞(徳島版)10月19日朝刊.

<歴史>

長谷川賢二(2000.3)「勸善寺所蔵大般若経奥書」について. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告:神山町」(阿波学会紀要46号), 徳島県立図書館:257-260.

長谷川賢二(2000.3)重清の一里松から太刀野の一里松まで;太刀野一里松から昼間一里松まで;昼間一里松から州津一里松まで;州津一里松から国境まで. 徳島県教育委員会編「徳島県歴史の道調査報告書3:撫養街道」, 徳島県教育委員会:35-40.

鎌田恭年*・澤田孝利*・内藤哲也*・長谷川賢二・遊亀房男*・結城孝典*・吉原明則*・反田卓*(2000.3) 徳島県教育委員会文化財課編「徳島県同和地区民俗文化史調査に基づく高校・社会教育同和教育資料集」, 徳島県教育委員会, 41pp.

長谷川賢二(2000.4,7)あわ博物誌-この逸品31;37:阿波の板碑;四国遍路の装束. 読売新聞(徳島版)4月20日;7月13日朝刊.

長谷川賢二(2000.11)世紀末と末法思想-文化の森開園10周年記念展「世紀末大博覧会」に寄せて. 徳島新聞11月3日朝刊.

長谷川賢二(2000.11)四国遍路の形成と山伏の関係をめぐる覚書. 瀬戸内海地域史研究,(8):263-283.

長谷川賢二(2001.3)十年後の雑想. 歴史学と博物館のありかたを考える会編「歴史学と博物館のありかたを考える会設立十周年記念誌現場から」:113.

<民俗>

庄武憲子(2000.3)神山町の葬送儀礼. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告:神山町」(阿波学会紀要46号), 徳島県立図書館:273-276.

庄武憲子(2001.3)奄美諸島における為朝伝説地について. 法政大学沖縄文化研究所所報,(49):10-12

<美術工芸>

大橋俊雄(2000.4)藍染のたくみ1-扇面散文様小袖屏風貼り;2-薔薇に亀甲繋ぎ文様小袖;3-梅樹雪景文字文様小袖;4-雲流水幕大太鼓文様帷子;5-柳流水水草文様繡箔(企画展「藍のよそおい」から). 徳島新聞4月17日;4月19日;4月20日;4月21日;4月22日夕刊.

大橋俊雄(2000.5)あわ博物誌-この逸品32;33:小袖「雲流水幕大太鼓文様帷子」;友禅染「御簾几帳文様帷子」. 読売新聞(徳島版)5月11日;5月18日朝刊.

(4) 学会・研究室等での発表

(*印は館外の研究者)

上月康則*・西岡健太郎*・村上仁士*・佐良家康*・佐藤陽一・福田守*・倉田健悟*(2000.5) かんがい期と非かんがい期におけるメダカの分布と用水路環境に関する考察. 平成12年度土木学会四国支部第6回技術研究発表会(高知)

佐藤陽一・岡部健士*(2000.10) ダム下流に生じた減水区間の魚類相が貧弱なのはなぜか? 2000年度日本魚類学会年会(小田原)

佐藤陽一(2000.10) 魚の差別的名称. 2000年度日本魚類学会年会シンポジウム「魚の和名を考える-差別的名称をどうするか-」(小田原)

佐藤陽一・瀬能宏*(2000.10) 学会への提言-標準和名提唱・変更の際してのガイドライン-. 2000年度日本魚類学会年会シンポジウム「魚の和名を考える-差別的名称をどうするか-」(小田原)

上月康則*・佐藤陽一・村上仁士*・西岡健太郎*・倉田健悟*・佐良家康*・福田守*(2000.10) 都市近郊用水路網におけるメダカの生息環境要因に関する研究. 第28回環境システム研究論文発表会(名古屋)

佐藤陽一・岡部健士*(2000.10) ダム設置河川における魚類相と環境特性-徳島県勝浦川における調査から-. 第28回環境システム研究論文発表会(名古屋)

田辺力(2000.10) ババヤステ属の雌雄交尾器にみられる傷. 日本昆虫学会第60回大会(名古屋)

大村尚*・桑原保正*・田辺力(2000.10) E-及びZ-1-nitro-2-phenylethylene:ウチカケヤステの防御物質. 日本環境動物昆虫学会大会(名古屋)

大村尚*・桑原保正*・田辺力(2001.3). マクラギヤステの警報フェロモン. 日本応用動物昆虫学会第45回大会(松江)

田辺力(2001.3) 交尾器形態と生殖隔離の関係:ミドリババヤステ種複合体の例. 日本生態学会第48回大会自由集会(熊本)

小川誠(2001.2) 博物館の情報の有効活用. MML研究会(美濃加茂)

小川誠(2001.3) 博物館のホームページ徹底活用. 環瀬戸内地域(中国・四国地方)自然史系博物館ネットワークシンポジウム「博物館を使いたおす-自然史系博物館の役割と未来-」(大阪)

中尾賢一(2001.1) 長崎県島原半島南部の下部~中部更新統, 北有馬層の堆積環境と貝化石. 日本地質学会関西支部・西日本支部合同例会(鳥取)

高島芳弘(2000.12) 前山古墳群の発掘調査成果. 古

代学協会四国支部第14回大会「前方後円墳を考える」
(徳島)

魚島純一(2000.7)博物館施設におけるくん蒸の現状と今後の課題. 徳島博物館研究会例会(徳島)

魚島純一(2000.9)博物館施設におけるくん蒸の現状と今後の課題. 全国美術館会議保存ワーキンググループ第18回会合(徳島)

長谷川賢二(2000.5)博物館と教育をめぐる課題. 徳島博物館研究会例会(徳島)

長谷川賢二(2000.7)論文評:福家清司「『阿波山岳武士論』再考」. 徳島地方史研究会例会(徳島)

長谷川賢二(2000.8)天正の法華騒動をめぐる. 第36回四国中世史研究会(高知)

長谷川賢二(2000.9)公立博物館の展示と歴史学研究. 第5回歴史学談話会(徳島)

庄武憲子(2000.8)徳島県の祭礼山車. 四国民俗学会.(愛媛)

庄武憲子(2000.9)阿波の婚姻習俗—花嫁行列を中心に—. 徳島民俗学会例会(徳島)

庄武憲子(2001.3)徳島県内の葬列, 葬具について. 徳島民俗学会例会(徳島)

参加者:27名

●第5回中四国九州保存修復研究会

開催日:11月11日

会場:博物館実習室

参加者:13名

●古代学協会四国支部第14回大会「前方後円墳を考える」(古代学協会四国支部と博物館との共催)

開催日:12月16~17日

会場:文化の森イベントホール

参加者:16日189名、17日155名

●第37回四国中世史研究会

開催日:12月23~24日

会場:博物館講座室

参加者:16名

6. 研究会・学会等の開催

●植物談話会

開催日:平成12年4月~13年3月までの毎月1回開催(土曜日の18:30から)

会場:博物館実習室

参加者:毎回約15名

●徳島博物館研究会

開催日:平成12年5月~13年3月まで(2~3か月に1回開催)

会場:博物館応接室または講座室

参加者:毎回約10名

●ヒマラヤ植物研究会

開催日:5月20~21日

会場:博物館講座室

参加者:26名

●溪畔林研究会および記念講演会「水辺林の再生をめざして」(溪畔林研究会と博物館との共催)

開催日:6月3日

会場:文化の森イベントホール

参加者:141名

●四国貝類談話会

開催日:6月17~18日

会場:博物館講座室

Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。徳島の自然や歴史・文化に関する資料は可能なかぎり網羅的に収集することはもちろん、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として四国や西日本の資料も収集していくことにしている。とくに自然の各分野においては、日本の地史や生物相の形成に深い関係のある中国大陸や東南アジアをはじめ、海外まで目をむけた収集も必要になる。

資料の収集は、購入・寄贈・採集・交換など様々な方法で行っている。最近では、県民からの資料の寄贈も増えてきている。資料の購入には美術品等取得基金を充てている。

平成12年度は7名(自然4、人文3)の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

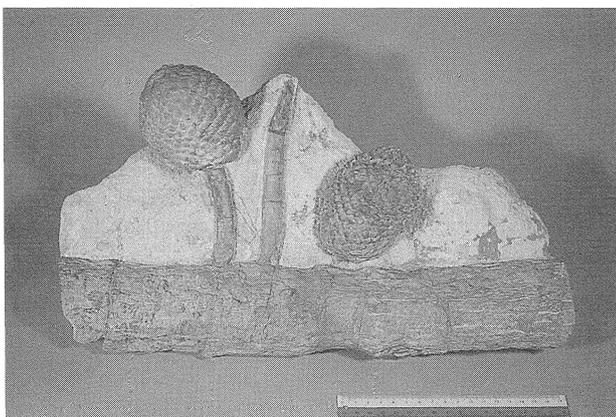
1. 購入資料

●動物

メガニューラ(古生代の大型トンボ)復元模型	1点
ロシアおよび中央アジア産蝶類標本	1,086点
メダカ拡大模型	2点

●地学

外国産鉱物	3点
プロトケラトプス	1点
外国産貝化石	35点
菱マンガン鉱ほか外国産鉱物	19点
辰砂ほか外国産鉱物	14点



アルゼンチン産のアラウカリア (球果類、ジュラ紀)

アラウカリア (球果類) およびモササウルス	2点
軟玉ほか外国産鉱物	4点
アジア産白亜紀恐竜化石	3点

●歴史

蜂須賀家柄鏡	1点
大栗家文書	176点
徳島県阿波国新町鉄橋之図	1点
蜂須賀綱矩公拝領京焼茶碗	2点
賀嶋和泉黒印状	1点
徳川秀忠黒印状	1点
蜂須賀家万字紋空穂	1点
心形刀流剣術免許状	1点
名東郡一宮村検地帳	6点
阿州剣山谷右衛門錦絵	1点
阿州鬼鹿毛清七錦絵	1点
家督相続文書	2点
蜂須賀家関係書状	3点
大坂冬夏両陣図	2点
劇場チラシ	161点
林半窓画阿波盆踊図	1点
質物帳	1点
日吉丸・蜂須賀与六錦絵	3点
大徳島市地図	1点
唐草蒔絵万字紋笄	2点
八木芹舎俳句短冊	1点
美談武者八景錦絵	3点
剣山谷右衛門角力取組図錦絵版画	1点
合戦武具	20点
鉄錆色漆塗六十二間小星兜	1点

●民俗

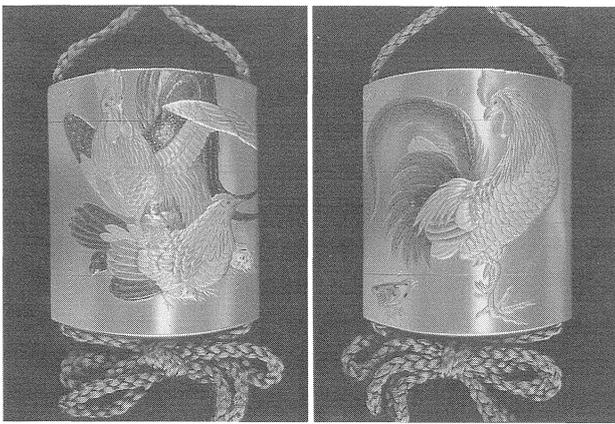
葬列用具	24点
結納熨斗および結納受け取り熨斗	2点

●美術工芸

紅葉の賀図	1点
草花蜜陀絵提重	1点
海部大小 拵*	1点
古梅根付	1点
鶏蒔絵螺鈿印籠*	1点
東海道五十三次図	1点

(*12年度資料収集委員会における審査資料)

購入資料合計 1,596点



鶏蒔絵螺鈿印籠（表・裏）

2. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

キツネ	1点	朝日	春樹氏
キツネ	1点	市原	眞一氏
キツネ	1点	市原	眞一氏
ナシフグ×コモンフグ交雑個体標本	2点	横川	浩治氏
ナガレホトケドジョウ	4点	若宮	慎二氏
カワセミ	1点	大崎	恵氏
スズメ	1点	原	道一氏
カモシカおよびニホンジカ	2点	井口	光二氏
鳥	多数	曾良	寛武氏
高知県産淡水魚標本	多数	高橋	弘明氏
スポッテド・ガー	1点	田村	俊哉氏
ホトトギス	1点	宮本	勇氏
那賀川産カジカおよびアユカケ	3点	若宮	慎二氏
ヤマネ	1点	山口加代子氏	
マミチャジナイほか鳥	多数	吉田	和人氏
鳥	多数	曾良	寛武氏
徳島県産・九州産淡水魚標本	多数	橋本 健一・岡本 充氏	
ヤマドリ剥製	1点	小出	満氏
タヌキ（白化個体）	1点	野々瀬佳嗣氏	
シロハラ	1点	中尾	匠氏
ニホンカモシカ	1点	県文化財課	
サヨリ	2点	原	道一氏
イカル	1点	平岡	竹美氏
メジロ	1点	原	道一氏
「わたしたちのまわりの自然」(CD-ROM教材)	1点	木村	善行氏

●動物（無脊椎動物）

陸産貝類標本	98点	阿部	永氏
--------	-----	----	----

●動物（昆虫）

徳島県産蝶類標本	1,333点	市橋	忠義氏
ベニヒカゲ標本	100点	三木	将義氏

●植物

帰化植物、イネ科ほか植物	多数	赤澤	時之氏
バクチノキほか	多数	片山	泰雄氏
ナガバノウナギツカミほか	4点	小林	禧樹氏
コクモウクジャクほか	7点	田淵	武樹氏
トゲミノキツネノボタンほか	3点	森本	康滋氏

●地学

ブンブクウニ化石	1点	松岡	敬二氏
鳴門海峡海底産化石	5点	北田義信氏ほか	
鳴門海峡海底産化石	24点	小野	守氏
有珠山火山灰ほか	2点	山根	勝枝氏
三波川帯変成鉱物	9点	神野	裕之氏
紡錘虫石灰岩	1点	松村	良弘氏
相生町産前期白亜紀化石	1点	白石	弘幸氏
ナウマンゾウ臼歯・切歯片	2点	安宅	義夫氏
千葉県産貝化石	13点	吉田	浩一氏

●歴史

龍吐水・石製金庫	2点	久次米義文氏	
斗榭他	26点	佐藤	昌史氏
国中神社奉納品ほか	4点	天野	尊温氏
高越鉱山使用鋏	1点	本田	昇氏
貨幣	4点	天羽	利夫氏
小学校卒業証書	2点	大橋	俊晴氏
戦時県民生活資料	7点	東條	静一氏
光永家文書	14点	光永	吉子氏
板碑拓本	9点	竹條	教悟氏

●民俗

徳島県内河川筏関係資料	24点	森	庸子氏
蓑笠ほか	11点	林	賢治氏
オルガンほか	2点	東出	亀子氏
衣装箱ほか	2点	林	貴右氏
背負い梯子ほか	21点	竹林	伸夫氏
天狗久工房写真ネガフィルムほか	3点	三浦	久夫氏
金鋏ほか	38点	三浦	實夫氏
着付け人形静御前（初代天狗久作）ほか	2点	鱸	寿美子氏

●美術工芸

万宝来蔵ほか	5点	尾崎	義信氏
--------	----	----	-----

3. 寄託資料

●動物

阿南市漂着マッコウクジラ下顎歯
3点 阿南市教育委員会

●考古

阿南市椿町曲銅鐸（重要美術品）1点 松浦菊男氏
阿南市山口町田村谷銅鐸（国指定重要文化財）
1点 田村英一郎氏

●歴史

徳島城天守閣模型 1点 貞光工業高等学校
足利家守札 1点 富樫 栄一氏
徳島城下町絵図ほか 2点 寺戸 恒夫氏
伝三好長輝木像ほか 9点 三好 豊氏
阿波国大瀧寺所領注進状 1点 太 龍 寺
稲田家文書 148点 寺戸 恒夫氏

●民俗

人形忠作丸目団七頭ほか 4点 楠 育治氏
祭礼用馬具および衣装 102点 中村 健二氏

●美術工芸

守住貫魚筆 布袋図ほか 5点 西條 浩三氏
守住貫魚筆 風景図ほか 4点 田口祥太郎氏

4. 資料の貸し出し

●動物

徳島県メダカ生息調査解説パネル 4点
鳴門教育大学附属小学校
タビラクチほか魚類標本 4点 橋本 健一氏
イドミミズハゼ標本 4点 藍澤 正宏氏
イタチほか哺乳類剥製 5点 木村 善行氏
ツキノワグマ剥製写真
1点 日本専門図書出版株式会社
昆虫標本 4箱 徳島市立鮎喰教育集会所

●地学

高知県唐浜産ハマグリ属化石 3点 小澤 智生氏

●考古

若杉山遺跡出土品 2点 山城町石の博物館
大谷遺跡出土石器および縄文土器 14点
徳島市教育委員会（徳島市立考古資料館）
伝長者ヶ原銅鐸および若杉山遺跡出土石臼・石杵・
辰砂原石 11点 仙台市富沢遺跡保存館
左右山遺跡および東寺遺跡出土平形銅剣 5点
徳島市教育委員会（徳島市立考古資料館）
入田瓦窯跡出土円面硯 1点

徳島市教育委員会（徳島市立考古資料館）

●歴史

全国水平社創立大会綱領・宣言（複製）ほか
2点 水平社博物館
地方測量之図ほか 4点 安城市歴史博物館
大砲発射実験使用石弾 1点 秋田市立佐竹史料館
大栗家文書（神領村絵図ほか）5点 徳島県立文書館
大栗家文書（阿淡御国法ほか）171点 徳島県立文書館

●民俗

いただきさん人形ほか 2点
食文化交流プラザ2000徳島県実行委員会
初代天狗久関係写真 2点（財）平野美術館

●美術工芸

大谷焼藩窯出土陶片ほか 295点 日下 正剛氏
関ヶ原合戦図絵巻粉本 2点 徳島市立徳島城博物館
守住家資料 守住周魚肖像写真
1点 徳島県立近代美術館
中山養福筆 鷹鴨図 1点 徳島県立文書館
竹桐唐草文鐸ほか 26点 海南町立博物館

5. 特筆すべき資料の受け入れと整理

●阿部近一氏蔵書

阿部近一氏は、植物や陸産貝、哺乳類など徳島県の生物相研究の第一人者である。氏は1993年に他界されたが、収集標本は数年前に博物館に寄贈され、整理が進められている。また、平成11年度には蔵書類（図鑑類などの図書、学会や研究会などの雑誌、写真（ネガ・紙焼き・スライド、手紙など）の寄贈を受けた。これらの資料は氏の収集した標本や発表した論文等を補完するもので、徳島県の生物相を明らかにする上で欠かせないものである。

12年度は、その蔵書関係の整理を行った。1,564点の図書は分野別に分類し、データベースに入力した。また、阿部近一氏の論文はまとめて製本し、阿部近一氏集として2部作成した。スライドフィルムの一部はPhotoCDに入力した。

●植物標本の交換

12年度から東北大学(TUS)、福島大学(FUKU)およびアメリカ合衆国のOregon State University (OSC)と標本の交換を始めた。これらの大学との交換で入手した標本は徳島県産の植物との比較材料として大きな価値のある資料である。

●分野別収蔵資料数（平成13年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	16,541	16,473	55	7	6
（無脊椎）	26,172	26,114	0	58	0
（昆虫）	110,398	110,011	0	3	384
植 物	180,566	180,219	61	5	281
地 学	6,135	6,069	64	2	0
考 古	3,191	3,047	72	13	59
歴 史	8,054	7,337	23	4	690
民 俗	4,453	4,443	5	5	0
美 術 工 芸	4,997	4,988	0	4	5
合 計	360,507	358,701	280	101	1,425

6. 館蔵資料数

平成13年3月末日現在の分野別収蔵資料数は上表のとおり。

収蔵資料については、整理、標本作製等がすんだものから順次コンピュータ入力し、資料データベースを作成している。

7. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は、購入資料に応じて特に必要がある場合にその都度委嘱される。本年度は、平成13年2月13日に第14回委員会を開催し、「1. 購入資料」にリストした人文資料2件の購入を諮問した。

8. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろ

●博物館資料収集委員会委員

（◎委員長、○副委員長）

氏 名	役 職（専門分野）
◎湯浅 良幸	徳島史学会会長（民俗）
○高橋 啓	鳴門教育大学学校教育学部教授 （歴史）
生野 勇	日本美術刀剣保存協会評議員 （美術工芸）
石井 愷義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田 啓祐	徳島大学総合科学部教授（地学）
*荒川 浩和	文部省文化財保護審議会専門委員 （漆工史）

*第14回委員会の特別委員

んのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数）

10,563冊（平成12年度分 510冊）

●購入雑誌

自然史系（30タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プランタ、

月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、インセクタリアム、SCIAS, American Journal of Botany, Cladistics, Entomology Abstracts, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Oikos, Paleobiology, Plant Systematics and Evolution, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Biological Journal of Linnean Society

人文系（34タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、民族学研究、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、Folklore, Journal of American Folklore

●当館刊行物の定期発送先（平成13年3月末現在）

博物館ニュース		1,432ヶ所
博物館年報		485ヶ所
研究報告	国内	539ヶ所
	国外	158ヶ所
展示解説		234ヶ所
企画展図録	自然	126ヶ所
	人文	235ヶ所

9. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料および借用した資料は、原則としてすべて収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

当館では資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm（約2.3m³）で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

12年度は20回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は床面積20m²×高さ3m（約60m³）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤に

は臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

12年度は、5回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなつて、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

今回は11年度に実施したので、次回は14年度に実施する予定である。

●総合展示室の簡易燻蒸

常設展示室は完全密閉がむずかしいことから、開館以来10年間、燻蒸等の害虫防除処置を行ってこなかった。しかし、各種害虫の殺虫および博物館資料の適正な展示環境の確保の必要性を感じ、12年度に、ピレスロイド系薬剤を炭酸ガスに混ぜたものを散布して一定時間簡易な密閉状態を保つことによって、各種害虫の殺虫処理等を行う簡易燻蒸を実施した。

IV 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成12年度は、年間76回の普及行事を実施した。博物館の普及行事が県民のあいだに定着してきているが、参加者は徳島市内とその近郊在住者に片寄っている。普及行事の内容の充実とともに、郡部の参加者をどう増やしていくかが課題になっている。

また、12年度は学校教育との一層の連携を図るため、「博物館と学校との連携に関する研究会」を設置して検討を進めるなど、具体的な取り組みを開始した。

1. 普及行事

■体験学習

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

4月23日(日)	藍染めをしよう	参加者25人
7月16日(日)	火おこし	49人
8月27日(日)	石オノをつくろう	28人
10月8日(日)	土器づくり①(成形)	35人
11月5日(日)	土器づくり②(焼成)	26人
2月25日(日)	わらじをつくろう	35人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、町並み、建造物などを見学してま



歴史散歩「石造文化財をしらべよう」

わるシリーズ。

4月16日(日)	徳島城めぐり	17人
5月14日(日)	古墳見学①	39人
7月9日(日)	石造文化財をしらべよう	14人
11月26日(日)	のろし場をしらべよう	5人
12月10日(日)	眉山周辺寺社めぐり	26人
2月11日(日)	古墳見学②	34人
3月18日(日)	国府町史跡ウォーク	32人

■野外自然かんさつ

野外にでかけて行う季節に応じた動植物の観察や地質の見学会。12年度は文化の森周辺のほか、徳島市、鳴門市、神山町、勝浦川河口、県南、土居町(愛媛県)などで実施した。

4月9日(日)	眉山の地質見学	21人
4月23日(日)	春の植物観察	18人
4月30日(日)	帰化生物をさがそう①	8人
5月21日(日)	磯のいきもの①	91人
5月28日(日)	帰化生物をさがそう②	10人
6月4日(日)	磯のいきもの②	62人
6月11日(日)	川原の石ころしらべ	中止
6月17日(土)	光に集まる昆虫かんさつ①	中止
7月22日(土)	光に集まる昆虫かんさつ②	53人
7月29日(土)	水生昆虫のかんさつ	84人
7月30日(日)	帰化生物をさがそう③	51人
9月9日(土)	秋の鳴く虫	26人
9月17日(日)	島田島の地質見学	23人
9月24日(日)	河口のいきもの	66人
10月1日(日)	秋の植物観察	7人
10月22日(日)	鉱物さがし	27人
11月5日(日)	那賀川の植物観察	26人

■土曜講座

毎月第2土曜日の午後2時から1時間ほど、学芸員が各自の研究テーマ周辺の話題について話をする講座。申し込み不要・定員先着50名で実施している。

4月8日(土)	災害と文化財保存	9人
5月13日(土)	ミノムシのはなし	23人
6月10日(土)	花嫁行列ー阿波の婚姻習俗からー	14人
7月8日(土)	平安初期の仏像の魅力	34人
8月12日(土)	帰化植物の世界	16人

9月9日(土)	江戸城をしらべる	31人
10月14日(土)	変わった巻き方をしたアンモナイト	21人
11月11日(土)	ゴジラとウルトラマン—大衆文化の現代史—	21人
12月9日(土)	おかずの博物学	7人
1月13日(土)	おこめのなかま	8人
2月10日(土)	生きものの名前	13人
3月10日(土)	鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石	16人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察会、講習会。内容に応じて実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないで、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

8月20日(日)	かんたん貝の標本の作り方	31人
8月23日(水)	標本の名前をしらべる会	62人
11月19日(日)	貝化石標本の作り方	23人
12月3日(水)	古美術品の取りあつかい方	6人
1月14日(日)	岩石薄片標本をつくろう	14人
1月21日(日)	博物館をたんけんしよう	32人
1月28日(日)	落ち葉の中のいきものたち	49人
2月18日(日)	おかずの博物学実習編	27人
3月4日(日)	レプリカづくり①(型どり)	19人
3月11日(日)	レプリカづくり②(色つけ)	19人

■ミュージアムトーク

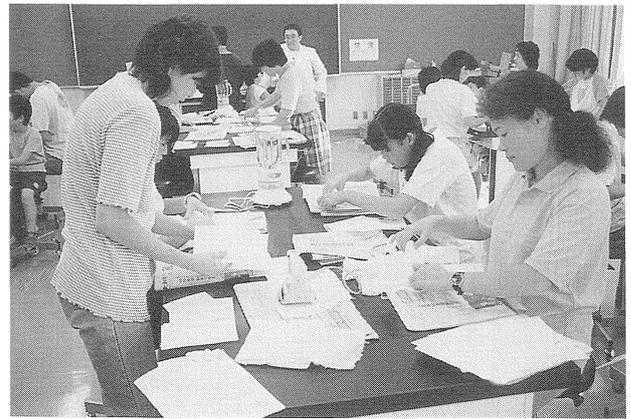
テーマにそって数回のシリーズで実施する講座。12年度は「続・中世説話を読む」を行った。

1月27日(土)	続・中世説話を読む①	7人
2月24日(土)	続・中世説話を読む②	7人
3月24日(土)	続・中世説話を読む③	5人

■移動講座

移動博物館の試みとして、学芸員が講師をつとめて館外の社会教育施設と共催で行う講座。12年度は4～6月に井川町ふるさと交流センターで、1～3月に海南町立博物館で実施した。

4月23日(日)	考古学から魏志倭人伝を読む①	34人
5月28日(日)	考古学から魏志倭人伝を読む②	33人
6月25日(日)	考古学から魏志倭人伝を読む③	34人
1月21日(日)	考古学から魏志倭人伝を読む①	49人
2月18日(日)	考古学から魏志倭人伝を読む②	40人
3月18日(日)	考古学から魏志倭人伝を読む③	32人



みどりの工作隊「雑草で紙をつくろう」

■みどりの工作隊

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習。12年度に室内実習から分離して別シリーズとした。

8月19日(土)	きれいな葉脈のしおりづくり	40人
9月10日(日)	雑草で紙をつくろう	33人
10月15日(日)	おし葉をつかったカルタづくり	27人
12月17日(日)	竹で遊ぼう	33人

■企画展関連行事

企画展開催中に、次の記念講演会および展示解説を行った。

●企画展「藍のよそおい」展示解説

第1回：4月30日(日)	参加者25人
第2回：5月4日(木)	参加者38人

●企画展「藍のよそおい」記念講演会 5月7日(日)

講師：長崎 巖氏(東京国立博物館染織室長)
演題：藍の歴史
会場：文化の森イベントホール
参加者：89人

●企画展「侵入者たち—外国からやってきた生きものたちの光と影—」展示解説

第1回：7月23日(日)	参加者41人
第2回：8月6日(日)	参加者39人

●企画展「世紀末大博覧会」展示解説

第1回：11月3日(金)	参加者30人
第2回：11月12日(日)	参加者20人

■クイズラリー

第2・第4土曜日(長期休業日を除く)に、小・中・高校生を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に始めたもので、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、新しい発見につながることを期待している。参加者全員に簡単な記念品を贈呈し

ている。

4月8日(土)	80人(小	74・中6・高0)
4月22日(土)	111人(小	104・中6・高1)
5月13日(土)	123人(小	118・中5・高0)
5月27日(土)	82人(小	74・中3・高5)
6月10日(土)	116人(小	99・中16・高1)
6月24日(土)	138人(小	136・中2・高0)
7月8日(土)	105人(小	100・中4・高1)
9月9日(土)	86人(小	84・中2・高0)
10月14日(土)	144人(小	142・中1・高1)
10月28日(土)	105人(小	102・中1・高2)
11月11日(土)	119人(小	116・中3・高0)
11月25日(土)	116人(小	116・中0・高0)
12月9日(土)	92人(小	92・中0・高0)
1月13日(土)	98人(小	98・中0・高0)
1月27日(土)	71人(小	71・中0・高0)
2月10日(土)	129人(小	127・中2・高0)
2月24日(土)	128人(小	127・中1・高0)
3月10日(土)	87人(小	87・中0・高0)
3月24日(土)	111人(小	107・中4・高0)
参加者合計	2,041人(小	1,974・中56・高11)

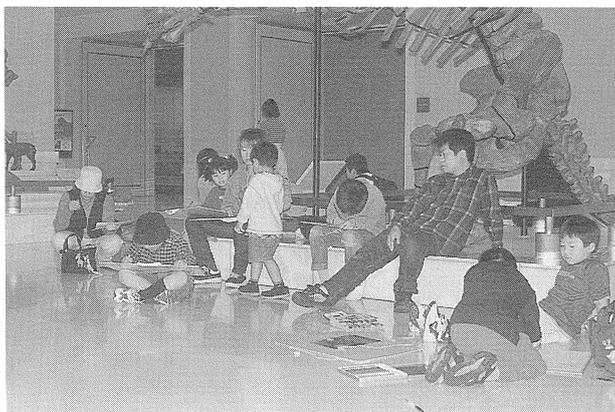
■その他の普及行事

●博物館こどもの日フェスティバル 5月5日(金)

博物館開館10周年記念行事のひとつとして、博物館と友の会の共催で実施した。恐竜などの折り紙教室や、大昔の衣装を着て記念写真に収まる体験コーナーを設け、小学生以下の子どもたちには記念品を贈呈した。参加者：約1,500人

●博物館写生大会 11月3日(金)～5日(日)

博物館開館10周年記念行事のひとつとして、博物館と友の会の共催で実施した。小学生約300名の参加があり、それぞれお気に入りの展示物の前で写生を楽しんだ。



博物館開館10周年記念「写生大会」

なお、写生大会作品展を12月5～24日に開催し、全作品を展示した。

2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容(依頼者)の順に記す(内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略)。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

- 4月27日 大橋俊雄 NHK テレビ「情報交差点—Ourギャラリー」出演(企画展「藍のよそおい」紹介)
- 5月13日 大橋俊雄 NHK テレビ「おはよう四国」出演(企画展「藍のよそおい」紹介)
- 5月25日 天羽利夫 石井町ふるりの歴史を学ぶ会5月学習会で講演「前方後円墳の謎—石井町前山古墳群の発掘調査—」
- 6月1日 小川 誠 NHK テレビ「情報交差点—ネイチャー徳島」出演(ナルトサワギク)
- 6月17日 高島芳弘 徳島市立考古資料館考古学入門講座で講演「縄文人の道具」
- 7月13日 長谷川賢二 徳島市立高校教職員同和問題研修会で講演「部落史を考える」
- 7月13日 魚島純一 徳島県立文書館古文書保存講座で講演「文書資料の保存科学」
- 7月19日 長谷川賢二 第35回香川県資料館協議会研修会で講演「博物館・資料館のネットワークについて」
- 7月28日 天羽利夫 全国史跡整備市町村協議会四国地区協議会で講演「野外博物館としての史跡整備のあり方」
- 7月29日 長谷川賢二 徳島市立徳島城博物館徳島歴史講座で講演「まじないの社会史」
- 8月17日 天羽利夫 徳島県シルバー大学校で講演「徳島の文化風土」
- 9月24日 小川 誠 徳島県森の案内人研修事業で講演「植物観察法」
- 10月16日 長谷川賢二 四国放送ラジオ「ちょっとパジャマは早すぎる」出演(企画展「世紀末大博覧会」紹介)
- 11月30日 小川 誠 NHK テレビ「情報交差点—ネイチャー徳島」出演(徳島県のキク属)
- 12月24日 小川 誠 野草クラブ新年例会で講演「徳島県のキク」

- 1月26日 天羽利夫 日本博物館協会博物館指導者研究協議会歴史部門研修（香川県歴史博物館）でパネラー参加「これからの歴史博物館のあり方」
- 2月1日 長谷川賢二 徳島市加茂名小学校校内研修会で講演「部落史を考える」
- 3月1日 小川 誠 NHK テレビ「情報交差点－ネイチャー徳島」出演（アリが運ぶ種子）
- 3月9日(金) 山川浩實 小松島ロータリークラブ例会で講演「恒久平和を求めるために－アメリカ軍資料から見た徳島大空襲－」
- 3月15日 長谷川賢二 平成12年度同和問題・人権啓発講演会で講演「資料収集と公開について」（徳島県立図書館）
- 3月28日(水) 山川浩實 小松島南ロータリークラブ例会で講演「関ヶ原合戦と蜂須賀家」

行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに承諾書を発行することになっている。

平成12年度は、8月21～25日に実習生の受け入れを行った。実習生は26人（男5人、女21人）で、大学別の内訳は次のとおりである。

四国大学	12人	金沢大学	1人
徳島大学	7人	高知女子大学	1人
徳島文理大学	1人	関西学院大学	1人
茨城大学	1人	立命館大学	1人
京都女子大学	1人		

カリキュラムは別表のとおりで、指導の都合上、少人数のグループに分割した時間帯もある。学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

3. 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条で、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を

4. 学校教育との連携

博物館ではこれまでも、学校行事（遠足等）での団体見学の受け入れや児童・生徒向けの各種普及行事などを行ってきた。しかし、最近の教育改革に伴う学校完全週5日制や「総合学習」の導入、社会人講師の受け入れ等々と関連し、博物館等の社会教育機関に対してもっと積極的な学校教育への支援が要請されるようになってきた。

●12年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前（9:30～12:00）		午後（13:00～16:00）		（16:00～16:30）
8/21（月）	オリエンテーション（山川）	全員	博物館資料の保存（魚島）	全員	ノート記入 全員
	館内見学（山川）	全員			
	博物館の運営について（天羽）	全員			
8/22（火）	化石標本の整理（両角）	A班	博物館の情報システム（小川）	全員	ノート記入 全員
	古美術資料の取り扱い（大橋）	B班			
	普及行事及び展示の企画（田辺）	C班			
	化石の標本づくりと整理（中尾）	D班			
8/23（水）	古美術資料の取り扱い（大橋）	A班	魚類の標本管理（佐藤）	A班	ノート記入 全員
	考古資料の整理（高島）	B・D班	考古資料の整理（高島）	B・D班	
	標本の名前を調べる会（茨木）	C班	標本の名前を調べる会（茨木）	C班	
8/24（木）	化石の標本づくりと整理（中尾）	A班	民俗資料の整理（庄武）	A班	ノート記入 全員
	歴史資料整理1（山川）	B班	歴史資料整理2（山川）	B班	
	植物標本の整理（茨木）	C班	昆虫採集と標本の作り方（大原）	C班	
	歴史調査（長谷川）	D班	歴史調査（長谷川）	D班	
8/25（金）	博物館の普及活動（山口・坂本）	全員	火おこし実習（魚島）	A・D班	ノート記入 全員
			民俗資料の整理（庄武）	B・C班	

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとって役立つところであるはずである。当館としても博物館のもつ資源（もの・情報・人）とその活用法を普及するとともに、意識的・系統的に学校教育を支援する活動を行っていくことにしている。

平成12年度には、「博物館と学校との連携に関する研究会」（略称「博学連携研究会」）を設置し、博物館と学校との連携のあり方等についての協議を行った。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援

理科や社会科の授業、「総合学習」での活動と関連して、クラスやグループ単位で博物館を利用する例が増えてきた。受け入れに当たっては、展示資料だけでなく必要に応じて収蔵資料を見てもらったり、学芸員が助言するなどの支援を行った。

①加茂名中学校（徳島市）2年生・6人

11月8日（水）～10日（金）

地域体験学習「チャレンジ・トゥゲザ」で博物館を選んだ生徒を受け入れ、学芸員9人が指導して各種業務を体験してもらった。

②早稲田実業学校（東京都）高等部2年生・4人

11月21日（木）

校外教室（地域調査）「阿波おどりを調べる」で来館。（指導：山川）

③鳴門教育大学附属中学校（徳島市）2年生・3人

2月7日（水）

総合的学習「調査活動」で来館。（指導：大原）

④福島小学校（徳島市）3年生・110人

2月16日（金）

社会科「むかしの道具しらべ」で来館。収蔵資料を陳列し、体験してもらった。（指導：庄武）

⑤八万南小学校（徳島市）3年生・52人

3月9日（金）

「総合的な学習－課題解決学習－」で来館。事前に展示を見学し質問をもつての再来館だったが、質問のほとんどが恐竜関係に集中していた。

（指導：両角・大原）

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じて、学校での授業に学芸員を派遣した。授業では教員と共同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

①石井中学校（石井町）2月26日（月）・28日（水）

博学連携モデル事業として、1年生5クラスで理科「地層の中の化石」の授業を、博物館から持参し



博学連携の授業「地層の中の化石」（石井中学校）

た化石標本を使って教員と共同して行った。（講師：両角）

(3) 博物館資料の学校への貸し出し

学校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。学校貸出用資料リストを学校に配布して利用を呼びかけているが、まだ利用は少ない。今後、貸出用資料の充実と利用促進を図っていく必要がある。

①新野西小学校（阿南市）4月29日～5月15日

貸出資料：火おこし道具（マイキリ5組、火打ちガマ1個）

利用目的：社会科の授業

②脇町小学校 11月1～10日

貸出資料：火おこし道具（マイキリ、ヒキリイタ、ヒキリギネ、ホクチ）6組

利用目的：社会科の授業

(4) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業やクラブ活動等で自然観察、生活体験、歴史学習等をしようとする場合、どんなことをしたらおもしろいか、どんな資料が活用できるかなどについて、学芸員が博物館での普及行事等の経験を踏まえて教員の相談に応じることにしている。

その他、徳島県教育委員会からの依頼により、教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。

●平成12年度初任者研修講座（徳島県教育委員会）

8月22日（火）参加者14人

講義：博物館の概要および学校教育との連携

（講師：天羽）

博物館の普及活動について（講師：山口）

研修：博物館の裏側見学

(案内：大原・魚島・山口・坂本)

(5) 博物館と学校との連携に関する研究会

博物館と学校との連携を進めるため、平成12年度に博物館職員と学校教員で構成される「博物館と学校との連携に関する研究会」(略称「博学連携研究会」)を設置した。

12年度は2回の研究会を開催し、博物館と学校との一層の交流を図るとともに、博物館における学校教育への支援のあり方および学校教育における博物館の活用方法、博学連携モデル事業の実施等について協議した。

●第1回研究会

日時：11月17日(金) 15:30~17:30

場所：博物館講座室

議題：検討課題と活動計画

●第2回研究会

日時：2月27日(火) 15:00~17:00

場所：博物館応接室

議題：博物館に期待される学校教育への支援について
13年度の博学連携モデル事業について

5. 博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、企画展ポスター、年間催し物案内リーフレット、月間催し物案内等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動のPRにつとめている。これらは県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。さらに、電子メールを利用した催し物案内サービスも行った。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	246ヶ所
中学校	95
高等学校・その他学校	80
学会・同好会等	12
県および県教育委員会各課・機関	55
市町村教育委員会	50
公民館・隣保館	226
市町村および大学図書館	30
博物館施設	45
宿泊施設	32
報道関係機関等	61

●電子メールサービス

登録者 299人(平成13年3月31日現在)

●「博物館と学校との連携に関する研究会」委員名簿
(平成13年3月31日現在)

区分	委員名	勤務先	教科
学校教員	山西 節子	八万南小	社会
	大田 洋子	八万中	理科
	川北 淳	南小松島小	社会
	池内 裕之	石井中	理科
	園井 忠泰	鳴門一中	社会
	矢野 修	北島北小	社会
	森下 哲司	豊岡小	理科
	富永 紀彦	那賀川中	理科
	上松 正典	学島小	理科
	板垣 昌彦	阿波中	社会
博物館職員	両角 芳郎	(地学)	
	山口 英二	(普及係)	
	坂本 和裕	(普及係)	
	高島 芳弘	(考古)	
	小川 誠	(植物)	
	田邊 力	(動物)	
	庄武 憲子	(民俗)	

●報道機関への資料提供

- 4月26日 「博物館こどもの日フェスティバル」の開催について
- 5月2日 企画展「藍のよそおい」記念講演会の開催について
- 6月14日 部門展示(人文)「山の祈りー修験道の世界」の開催について
- 7月13日 「箏 銘九江」の展示について
- 8月24日 部門展示「江戸時代の絵画ー館蔵品からー」について
- 9月30日 文化の森総合公園開園10周年記念企画展「世紀末大博覧会」の開催について
- 10月12日 「徳島県立博物館写生大会」の開催について
- 10月12日 モラエス関係資料の初公開について
- 11月3日 初代天狗久着付け人形の寄贈受け入れと展示について
- 12月2日 「徳島県立博物館写生大会作品展」の開催について
- 3月15日 日本人ペルー移住100周年記念「クントゥル・ワシ神殿の発掘ーアンデス最古の黄金芸術ー」展の開催について

以上のほか、毎月の催し物案内や美術品等取得基金によって8月末、11月末、3月末に購入した資料の内容についても資料提供を行った。

6. 博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。博物館館内に事務局を置いている。

●会員（平成12年度末）

個人会員（年会費2,000円） 115人
 家族会員（年会費3,000円） 111組・434人

●役員（平成12年度）

会 長：寺戸恒夫
 副会長：天羽利夫（博物館長）・和田賢次・真貝宣光
 幹 事：石原 侑・徳山 豊・多田精介・森本嘉訓・櫻原剛一・鎌田幸子・関眞由子・南部洋子・竹原初江
 監 査：森本康滋・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

博物館発行の企画展図録および解説書の増刷・頒布を行った。また、徳島の自然と歴史ガイド No. 2「文化の森の植物かんさつ」の増刷・頒布を行った。

②広報活動

12年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No. 13～15を発行し、会員に送付した。

③企画展説明会

企画展「藍のよそおい」、「侵入者たち—外国からやってきた生きものたちの光と影—」および「世紀末大博覧会」の開催期間中に、会員を対象とした説明会を行った。

④野外活動等

会員を対象とした行事を9回実施した。

○こどもの日フェスティバル（博物館と共催）

来館者に友の会の紹介と入会勧誘を行った。また、「昔の衣装を着よう」、「おりがみ教室」などの体験コーナーを設け、参加した小学生以下の子どもたちには記念品を進呈した。

日 時：5月5日(金) 9:30～15:00

場 所：博物館常設展示室

参加者：約1,500人

○総会

日 時：5月14日(日) 13:00～15:00

場 所：博物館講座室

参加者：15人

○第1回 園瀬川探検

園瀬川河口から上流に向かって、周辺の自然や歴史の秘密を探りながら探検した。

日 時：5月28日(日) 9:00～15:00

場 所：津田橋～文化の森

参加者：7人

○初夏の研修会（貸切バス使用）

別子銅山記念館、愛媛総合科学博物館（愛媛県新居浜市）を見学した。

日 時：6月18日(日) 9:00～18:20

参加者：47人

○第2回 園瀬川探検

戦国時代の砦のあった夷山や八万町の水田地帯を探検した。

日 時：7月23日(日) 9:00～14:00

場 所：文化の森～八万町一帯

参加者：8人

○博物館写生大会（博物館と共催）

博物館開館10周年を記念し、常設展展示物の写生大会を行った。なお、12月5～24日には作品展を開催し、全作品を展示した。

日 時：11月3日(金)～5日(日)

参加者：約300人

○第3回 園瀬川探検

文化の森から四門寺や宅宮神社、樋口古墳などを探検した。

日 時：11月12日(日) 9:00～14:00

場 所：文化の森～上八万町樋口

参加者：10人

○秋の研修会（貸切バス使用）



友の会「秋の研修会」（奈良県飛鳥地方）

奈良県飛鳥地方に1泊の研修旅行を実施。高松塚や亀型石など古代のロマンを堪能した。

日時：11月25日(土)～26日(日)

参加者：43人

○七草がゆ・草だんごをつくろう

春の七草とヨモギを集めてお粥とだんごをつくり、試食した。

日時：2月4日(日) 10:00～15:00

場所：博物館実習室

参加者：21名

7. 普及教育関係出版物

■徳島の自然と歴史ガイド②「文化の森の植物かんさつ」 2000年3月31日発行、A5判48ページ(全ページカラー)、700部+友の会増刷分300部

文化の森や身の回りで見られる植物の観察に役立つガイドブック。友の会で増刷・頒布している。

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で6,000部を印刷している。

平成12年度には次の4号を発行した。また、博物館ニュースの当館ホームページでの公開を始めた。

●No. 39 (2000年6月25日発行)

Culture Club 鳴門海峡海底の化石

速報 前山1号墳の発掘調査(2)

企画展 企画展 侵入者たちー外国からやってきた生き物たちの光と影ー

館蔵品紹介 初代天狗久作娘頭・初代天狗久関係写真

レファレンスQ&A 蜂須賀家では、御家騒動はなかったのですか？

●No. 40 (2000年9月16日発行)

Culture Club 岩蔭遺跡の調査

速報 1500万年前の魚の化石ーミヤノシタ サッパー

文化の森総合公園開園10周年企画展 世紀末大博覧会

館蔵品紹介 アメリカ軍投下ビラ

レファレンスQ&A 石を割った面にシダの葉のような模様がついていることがあります、それは化石ですか？

●No. 41 (2000年12月1日発行)

Culture Club アサギマダラと四国

歴史散歩 地藏院古墳ー巨石で築いた石室ー

情報ボックス 新町橋が生まれ変わった

館蔵品紹介 箏 銘九江

レファレンスQ&A 白花のホトケノザはめずらしいですか？

●No. 41 (2001年3月25日発行)

Culture Club 恐竜チタノサウルスのこと

情報ボックス 博物館資料の保存と地球環境

館蔵品紹介 ハイガイとその化石

レファレンスQ&A 「シカノアクニチ」とはどういう日ですか？

■その他

●博物館催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したB4判4つ折のリーフレット。14万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。また、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したB4のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

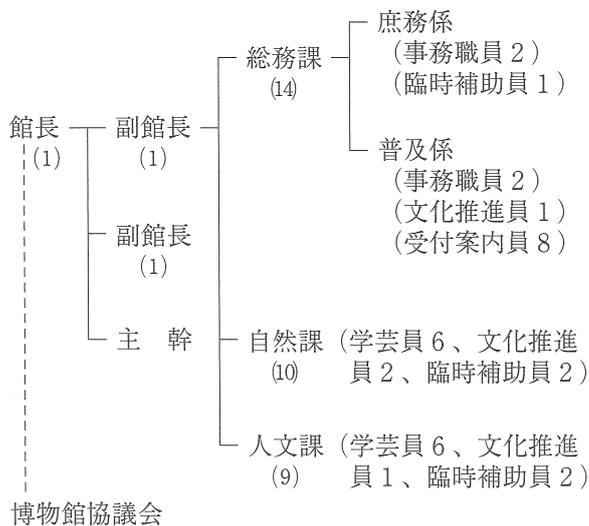
●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した小冊子。年度初めに県内各学校に送付している。

V 管 理 運 営

1. 組織・職員

(1) 組織図 (平成13年 5月 9日現在)



(2) 職員名簿 (平成13年 5月 9日現在)

館長 天羽 利夫
 副館長 喜田 正浩
 副館長 両角 芳郎 (地学)
 主幹 (総務課長兼務) 米益 麻夫

<総務課>

総務課長 (庶務係長兼務) 米益 麻夫
 主事 亀井 美穂
 普及係長 山口 英二
 主事 坂本 和裕
 文化推進員 島 さなえ
 臨時補助員 近藤 早苗
 受付案内員 佐々木千恵
 ♪ 佐々木道子
 ♪ 柳沢希世子
 ♪ 吉田 友子
 ♪ 山崎 光
 ♪ 加藤 陽子
 ♪ 荒井 美奈
 ♪ 行譜ゆかり

<自然課>

自然課長 大原 賢二 (動物)
 主任学芸員 佐藤 陽一 ()
 ♪ 小川 誠 (植物)
 ♪ 田邊 力 (動物)
 ♪ 中尾 賢一 (地学)
 学芸員 茨木 靖 (植物)
 文化推進員 坪内 千恵
 ♪ 中谷 敬子
 臨時補助員 山内 裕子
 ♪ 岩佐 春香

<人文課>

人文課長 山川 浩實 (歴史)
 専門学芸員 高島 芳弘 (考古)
 主任学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)
 ♪ 長谷川賢二 (歴史)
 ♪ 魚島 純一 (考古・保存科学)
 学芸員 庄武 憲子 (民俗)
 文化推進員 原 多賀子
 臨時補助員 赤岩 愛子
 ♪ 遠藤 仁美

(3) 人事異動 (平成13年 4月 1日付、カッコ内は前職)

退職：山口都志江 (平成13. 3. 31退職)
 転出：日下 武久・21世紀館副館長へ
 転入：喜田 正浩 (鳴門財務事務所次長)
 亀井 美穂 (那賀高校事務主事)

(4) 平成12年度非常勤・臨時職員

●文化推進員 (非常勤特別職)

小林 千恵 (平成10. 5. 1 ~)
 原 多賀子 (平成11. 4. 1 ~)
 濱田 康代 (平成11. 5. 1 ~ 12. 5. 31)
 島 さなえ (平成12. 4. 1 ~)
 福永千賀子 (平成12. 6. 6 ~ 12. 9. 30)
 坪内 千恵 (平成13. 1. 1 ~)

●臨時補助員

板東 利枝 (平成12. 4. 1 ~ 13. 3. 31)
 騎馬 貴子 (平成12. 4. 4 ~ 13. 3. 31)
 佐野真樹子 (平成12. 4. 1 ~ 13. 3. 31)

●平成12年度博物館費（2月現計予算額）

（単位：千円）

科目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報酬	26,220	26,220				
賃金	12,697	12,697				
報償費	1,160		450	300	170	240
旅費	8,076	928	2,406	3,679	883	180
需用費	33,585	3,993	19,635	3,975	4,179	1,803
役務費	10,715	1,859	5,733	576	1,782	765
委託料	9,376		7,376		2,003	
借損	828	127	471	30		200
備品費	46,888	1,618	2,806	2,086	*40,378	
負担金	146	81		65		
計	149,694	47,523	38,877	10,711	49,395	3,188

註）*のうちには、資料購入費34,928千円を含む。

竹内美千代（平成12.4.1～13.3.31）

岩佐 春香（平成12.5.1～13.3.31）

●受付案内員（非常勤特別職）

辻内 恵子（平成10.4.1～13.3.31）

地福 京子（平成10.4.12～13.3.31）

佐々木千恵（平成10.10.1～）

森脇 美和（平成11.4.1～13.3.31）

佐々木道子（平成12.2.1～）

斎藤 恵美（平成12.4.1～12.4.17）

柳沢希世子（平成12.4.1～）

吉田 友子（平成12.4.1～）

山崎 光（平成12.4.19～）

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成13年3月31日現在）

区分	氏名	役職等
学校教育	芝原 正治	県小学校教育研究会理科部会長 和田島小学校校長
	高島 稔之	県中学校教育研究会社会科部会長 城西中学校校長
	佐々木清克	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 阿波高等学校教頭
社会教育	樫原 正義	徳島市立徳島城博物館副館長
	藤井 隆司	日和佐うみがめ博物館館長
	大石 雅章 （副会長）	鳴門教育大学助教授
学識経験	中村 昌宏 （会長）	徳島文理大学教授
	佐野 英子	徳島新聞社事務局事業部副部長
	友滝 洋子	徳島県女性海外派遣交流協会会長
	田中 育代	ボランティアグループ「うずしおネット」運営委員会委員

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を上表に示す。

3. 博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法および徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

12年度は協議会を1回開催した。

●12年度博物館協議会

日時：平成12年8月2日（水）13：30～16：00

会場：博物館講座室

- 議事
- ①平成11年度決算及び事業報告について
 - ②平成12年度予算及び事業計画について
 - ③「県民に親しまれる博物館」のあり方について
 - ④「博学連携」について
 - ⑤その他

4. 各種委員・非常勤講師等の受諾

平成12年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

天羽利夫

徳島市立考古資料館協議会委員

(平成11. 7. 1～13. 6. 30)

日下武久

徳島市立德島城博物館協議会委員

(平成10. 5. 1～13. 3. 31)

両角芳郎

徳島大学総合科学部非常勤講師

(平成12. 4. 1～13. 3. 31)

佐藤陽一

とくしま川づくり委員会委員

(平成12. 10月～14. 3. 31)

高島芳弘

徳島市立考古資料館資料展示検討委員

(平成12. 2. 1～14. 3. 31)

長谷川賢二

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議会委員 (平成11. 4. 1～13. 3. 31)

岡山大学文学部非常勤講師

(平成12. 4. 1～13. 3. 31)

徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員

(平成12. 4. 1～13. 3. 31)

徳島県歴史の道研究会会員

(平成12. 5. 1～13. 3. 31)

徳島県同和地区民俗文化史調査委員

(平成12. 8. 10～13. 3. 31)

魚島純一

四国大学非常勤講師 (平成12. 4. 1～12. 9. 30)

庄武憲子

神山町史編集委員会執筆委員

(平成10. 7. 1～15. 3. 31)

5. コンピュータシステム

平成11年度にCOMET(徳島県文化・学習情報システム)のコンピュータシステム更改が行われ、一般への情報提供システムおよび業務システムに係わる部分に変更された。特に情報提供システムはインターネットベースに変更された。

(1) システム構成

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に

使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。

業務用システムでは、研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネットでつなぎ、2台のファイルサーバを中心としたMacintoshによるLANを構築している。職員1人につき1台のパソコンが支給されている。業務用サーバのデータは、21世紀館に常駐するSEによって毎日バックアップがとられている。

情報提供用システムでは、館内ではLANにより、館外へはインターネットによる情報提供を行っている。従来のCOMETによる資料データベースの提供は、Microsoft Windows NT Serverによって運用され、21世紀館がシステムの管理を行っている。博物館の催し物や各種ニュースなどは、Macintoshを使ったWWWサーバで博物館のホームページとして公開され、このサーバに関しては博物館が管理を行っている。

(2) システムの活用

●資料管理

博物館では収蔵資料をデータベースに登録している。資料データベース作成は、各分野ごとに担当学芸員が様々な目的に応じた柔軟なデータの加工ができるよう、市販ソフトであるファイルメーカー Pro を用いて行っている。

データベースを使って、資料ラベルや資料目録の作成、資料受け入れ・貸し出し管理、各種調査や問い合わせのデータ作成、情報提供用データの作成等の作業を行っている。

●各種データベースの構築

資料管理以外にも次のような各種のデータベースを構築し、共有している。

- ・図書データベース
- ・画像データベース
- ・文献データベース
- ・発送先住所データベース

●普及活動及び広報活動への活用

各種の広報用印刷物はパソコンを使って編集し、データを印刷業者に渡したり、レーザープリンタで出力したものを原稿として用いている。12年度も、催し物データベースを構築し、それを利用して催し物案内文の作成、行事記録の作成を行うようにした。さらにデータベースと電子メールソフトを連携して、電子メールでの催し物案内サービスを行っている(13年3月末現在の登録者約299名)。

●COMETを通じての情報提供

文化の森では、COMETを通じて来館者や各家庭

にさまざまな情報提供を行っている。博物館でも収蔵資料データベースや図書データベースを公開しており、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を専用フォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

●ホームページによる情報提供

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年の7月から、次期 COMET システムの実験という性格も兼ねて、新ホームページの運用を始めた。その成果をもとに、12年度は新システムの運用に伴い博物館のホームページも実運用を始めた。ホームページの主な項目は下記のとおりである。

- ・博物館の紹介（開館日・交通案内など）
- ・展示案内（企画展、常設展）
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動（データベース）
- ・学校等への利用案内
- ・出版物（展示解説、研究報告、博物館ニュースなどの案内）
- ・友の会、博物館協議会
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー（子供向けメニュー、映像コーナーなど）

●インターネットの活用

電子メールやホームページを職員が利用できるようになり、各種問い合わせや連絡、情報の収集に活用している。メーリングリストを利用し、博物館や研究者間の情報交換もさかに行われている。

●展示活動への活用

企画展の展示パネルの多くやラベルは、パソコンで作成し、レーザープリンタやカラープリンタで印刷したものを使うようになった。

●博物館業務管理への活用

日常の博物館業務管理にもシステムを活用しており、定型作業や集計作業の効率化を図っている。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会および日本博物館協会 四国支部

四国地区博物館協議会および日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館および相当施設の連絡・協議組織で、現在91館（園）が加盟している。四国地区の

会長（支部長）を担当する館が2年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっており、平成12～13年度の2年間は当館が幹事をつとめることとなった。

平成12年度の役員会および総会は次のとおり徳島市で開催された。

●12年度役員会・総会 7月4日(火) 13:30～17:00

会場：ホテル千秋閣

議事：役員改選

平成11年度事業報告及び決算報告について
新規加盟施設の紹介及び会費決定について
平成12年度事業計画案及び予算案について
その他

●研修視察 7月5日(水) 8:15～12:00

視察先：霊山寺、ドイツ館、矢野陶苑

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。加盟館は、設立時は31館であったが、9年度11館、11年度に2館、12年度に3館が加盟し、全部で47館（平成13年3月末現在）になっている。なお、当館に事務局が置かれている。

●役員（平成13年3月末現在）

会 長	徳島県立博物館長	天羽 利夫
副会長	大塚国際美術館理事	田中 秋穂
副会長	とくしま動物園長	本田 武
理 事	相生森林美術館長	仁木 正
理 事	徳島市立徳島城博物館副館長	檜原 正義
理 事	徳島県立近代美術館長	河江 薫
理 事	石の博物館長	岩崎 正夫
理 事	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館長	笹田 博之
監 事	海南町立博物館長	岡田 一郎
監 事	鳴門市ドイツ館長	藤本 毅

●12年度新規加盟館（3館）

阿波おどり会館、阿波池田たばこ資料館、美郷ほたる館

●12年度事業

①加盟館園の組織・職員と展示概要、主な収蔵資料リストの作成

アンケート調査結果を取りまとめて加盟館園に配布した。

②役員会の開催

・日時：6月9日(金) 10:30～12:00

場所：徳島県立博物館応接室

議事：総会について

- ・日時：11月7日(火) 13:30~15:30
- 場所：徳島県立博物館応接室
- 議事：先進地の博物館施設の調査、加盟館相互協力による共同事業の検討部会、研修会、新規加盟館とマップ改訂版の作成について

③総会の開催

- 日時：6月9日(金) 14:00~16:00
- 場所：徳島県立博物館講座室
- 議事：11年度事業報告並びに決算報告について
監査報告について
12年度役員について
12年度事業計画並びに予算案について

④研修会の開催

- 日時：2月8日(木)・9日(金)
- 場所：ラピス大歩危・石の博物館
- 内容：講演「地球科学の進歩と博物館の役割」
ラピス大歩危・石の博物館見学
- 研修視察(9日)：平家屋敷民俗資料館、阿波池田たばこ資料館

⑤先進地の博物館施設の調査

11年度の県外旅行業者へのPR活動に代わる事業として、県外の市町村立の小規模博物館を中心に視察を行うことになり、1月23~24日の日程で愛媛県内の博物館(高島華宵大正ロマン館、夕日のミュージアム、五十崎風博物館、内子町歴史民俗資料館)を訪問した。参加者17名。

⑥とくしまミュージアムスタンプラリーの実施

9年度に作成した「徳島博物館マップ」の有効利用とともに、入館者の増加をはかるなど、博物館活動の振興を図るため、11年度から3年間の期限で「とくしまミュージアムスタンプラリー」を実施している。

2年目の12年度は11組19名の完走者(スタンプラリーに参加する37館すべての見学者)が出た。

⑦協議会加盟館実務者による共同事業検討会の開催

- 日時：12月15日(金) 14:00~16:00
- 場所：徳島県立博物館講座室
- 内容：巡回展(三好和義写真展)の状況報告
共同企画展開催のための所蔵品リスト作成
共同講座開催のための講師リスト作成など

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク(略称「人権ネット」)は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、30機

関・団体が加入しており、事務局は大阪人権博物館、水平社博物館、福山市人権平和資料館、福岡県人権啓発情報センター、柳原銀行記念資料館で組織されている。

当館は発足時から加入しており、毎年1回開催される総会に職員を派遣しているほか、加入機関との個別的な協力も行っている。

12年度総会は、7月15~16日、京都府京北町の京都府立ゼミナールハウスおよび丹波マンガン記念館を会場として行われた。

(4) 環瀬戸内地域(中国・四国地方)自然史系博物館ネットワーク推進協議会

文部省委嘱の「科学系博物館活用ネットワーク推進事業」を中国・四国地区で推進するため、大阪市立自然史博物館が拠点となり、7館が加盟して本協議会が設立された。平成12・13年度の2年継続で、コンピュータを活用した各館標本データの相互参照システムの開発、市民参加による野外活動等の推進、学校教育現場とも連携した学習支援等に関する各種の事業を行うことになっている。

●協議会への加盟自然史系館園

- 大阪市立自然史博物館(事務局)
- 笠岡市立カブトガニ博物館
- 倉敷市立自然史博物館
- 高知県立牧野植物園
- 島根県立三瓶自然館
- 徳島県立博物館
- 兵庫県立人と自然の博物館

●12年度の当館担当事業

①学校貸出用実物標本セットなどの開発

次の4つの標本セットを製作し、各セットのA4判解説シートを印刷した。解説シートは、13年度に印刷するものと合わせてファイルし、学校に配布することになっている。

また、製作した化石標本セット等を活用し、石井中学校において博学連携モデル授業を行った(2月26・28日)。

- ・鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石(レプリカ)
- ・阿讃山地のアンモナイト化石
- ・勝浦川流域の白亜紀化石
- ・身の回りの植物を使った紙づくりセット

②環瀬戸内地域博物館横断検索システム

ネットワーク推進協議会加盟の各博物館が所有・公開している様々な情報を集約し、利用者が知りたいキーワードで一括して検索できるシステムの構築を行った。3月から一部の公開を始めている。

7. 視察等博物館関係来訪者

- 4月26日 大阪市立自然史博物館学芸員 佐久間大輔氏ほか1名
- 5月11日 中国広東省人民代表大会代表团一行12名
- 5月11日 滋賀県同和对策課主幹 北川久和氏ほか1名
- 5月12日 愛媛県歴史文化博物館学芸員 井上淳氏ほか2名
- 5月19日 山梨県学術文化財課長 望月三千雄氏ほか1名
- 6月28日 四国大学図書館学受講生42名
- 7月19日 山形県知事 高橋和雄氏ほか3名
- 8月11日 岡山県教育庁文化財課長補佐 児仁井克一氏ほか2名
- 8月22日 引田町歴史民俗資料館学芸員 萩野憲司氏
- 9月6日 愛媛県総合科学博物館展示案内員17名
- 9月12日 神戸女子大学文学部史学科教員・大学院生・学生一行102名
- 9月13日 静岡県企画調整部政策企画室長 望月利孝氏ほか4名
- 9月20日 神戸女子大学文学部史学科一行
- 9月29日 石川県立美術館学芸員専門員 宮衛氏
- 10月6日 大阪人権博物館学芸員 吉村智博氏
- 11月8日 山梨県議会教育厚生委員会一行13名
- 11月12日 鈴鹿市玉垣会館等運営委員一行23名
- 11月17日 NTT 新居浜支店一行
- 11月18日 Mr. Pete Brown, Bolton Museum(イギリス)
- 11月21日 岩手県立博物館主任専門学芸調査員 咲山まどか氏ほか1名
- 11月22日 高知県立歴史民俗資料館学芸員 梅野光興・野本 亮氏
- 11月23日 香川県歴史博物館学芸員 野村美紀氏
- 11月29日 京都文化博物館主任学芸員 南 博史氏
- 12月14日 名古屋市科学館総務課経営係長 加藤三紀彦氏ほか1名
- 1月26日 大阪市立自然史博物館副館長 嵯峨山淳二氏ほか1名
- 1月31日 香川県歴史博物館学芸員 胡 光氏
- 2月23日 丸亀市立資料館学芸委員、運営協力委員一行10名
- 3月1日 國學院大學博物館学講座実習生33名
- 3月13日 奈良県社会同和教育地区指導員協議会一行5名
- 3月14日 文化庁伝統文化課文化財調査官 宮田繁幸氏
- 3月16日 財務省財政制度審議会財政制度分科会財政構造改革部会一行8名
- 3月25日 泉南市人権啓発推進協議会一行
- 3月28日 萩市郷土博物館学芸係長 清水満幸市ほか1名
- 3月29日 沖縄県財政課主査 宮城 力氏ほか2名

Ⅵ 観覧者統計

●平成12年度常設展観覧者数

(単位：人)

開 館 日 数	有 料 観 覧 者										無 料 観 覧 者										観覧者 総 数				
	個 人			団体(割引20%)			減免(割引50%)			有 料 観覧者 計	学 校 教 育								第2・ 4土無 料入館	その他		無 料 観覧者 計			
	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生		園	幼・保育		小学校		中学校		高 校					計		
										人数		校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校		人数			
4	26	844	26	327	14	0	1	132	0	3	1,347	0	0	0	0	2	291	2	140	4	431	169	733	1,333	2,680
5	26	794	44	231	13	0	2	141	0	0	1,225	2	52	13	816	3	752	1	35	19	1,655	197	3,513	5,365	6,590
6	26	605	18	184	34	0	2	81	0	0	924	1	17	5	440	1	98	1	29	8	584	258	388	1,230	2,154
7	26	816	43	435	32	0	0	102	0	2	1,430	1	39	1	22	0	0	0	0	2	61	120	761	942	2,372
8	27	1,365	114	1,022	64	5	109	163	0	3	2,845	2	60	1	17	1	55	0	0	4	132	0	827	959	3,804
9	26	585	37	155	16	117	0	108	0	0	1,018	0	0	1	167	0	0	1	314	2	481	112	979	1,572	2,590
10	26	619	25	183	28	0	16	205	0	0	1,076	1	65	13	726	2	333	1	28	17	1,152	251	810	2,213	3,289
11	26	617	36	105	52	0	0	173	0	0	983	9	431	15	929	1	81	0	0	25	1,441	286	1,860	3,587	4,570
12	23	425	19	122	154	0	0	57	1	0	778	1	15	2	89	0	0	0	0	3	104	110	568	782	1,560
1	23	668	35	197	4	0	1	149	0	1	1,055	3	238	1	3	0	0	0	0	4	241	193	828	1,262	2,317
2	24	553	33	123	32	0	0	91	0	1	833	7	148	3	201	1	295	0	0	11	644	266	1,605	2,515	3,348
3	27	762	54	267	13	31	1	210	0	0	1,338	6	205	3	244	0	0	0	0	9	449	199	872	1,520	2,858
計	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132

●博物館常設展観覧者数累計（平成2～12年度）

(単位：人)

年 開 館 日 数	有 料 観 覧 者										無 料 観 覧 者										観覧者 総 数				
	個 人			団体(割引20%)			減免(割引50%)			有 料 観覧者 計	学 校 教 育								第2・ 4土無 料入館	その他		無 料 観覧者 計			
	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生		園	幼・保育		小学校		中学校		高 校					計		
										人数		校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校		人数			
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	13,744	23,280	38,132
計	3,148	259,471	21,302	95,871	25,039	1,693	4,818	41,998	157	195	450,544	198	10,604	1,011	96,621	207	30,944	98	13,140	1,514	151,309	13,677	92,749	257,735	708,279

●平成12年度企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者									無料観覧者	観覧者総数	
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
藍のよそおい	12.4.18 ～12.5.21	30	1,851	96	52	9	0	0	648	0	0	2,656	383	3,039
さよなら20世紀-カメラがとらえた日本の100年	12.6.1 ～12.7.9	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,745	6,745
侵入者たち-外国からやってきた生き物たちの光と影-	12.7.18 ～12.9.10	48	3,374	240	2,134	21	0	79	324	0	6	6,178	1,669	7,847
世紀末大博覧会	12.10.20 ～12.11.26	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15,784	15,784
計		145	5,225	336	2,186	30	0	79	972	0	6	8,834	24,581	33,415

●企画展観覧者数累計(平成3～12年度)

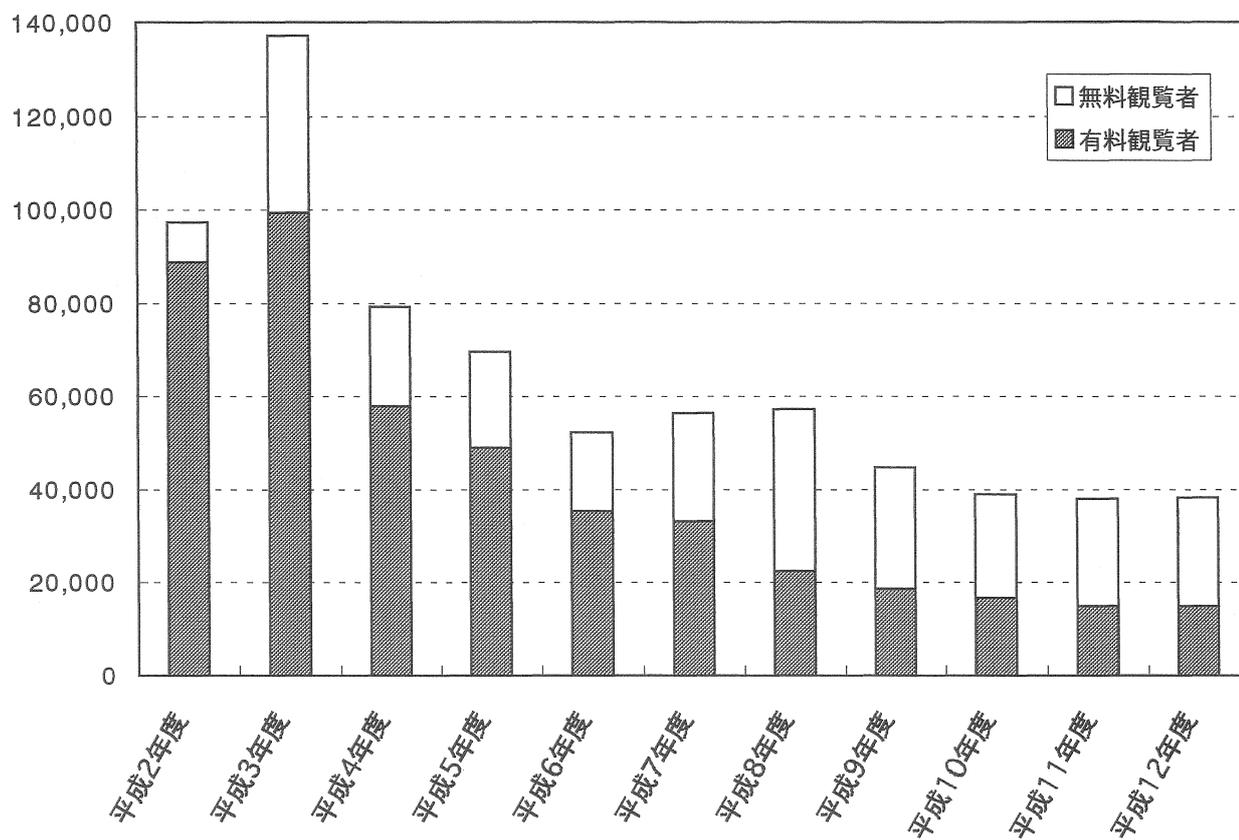
(単位：人)

年度	開館日数	有料観覧者									有料観覧者計	無料観覧者	観覧者総数
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
平成10年度	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	731	0	15	12,565	3,476	16,041
平成11年度	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,535	0	7	9,965	2,773	12,738
平成12年度	145	5,225	336	2,186	30	0	79	972	0	6	8,834	24,581	33,415
累計	1,060	83,342	6,884	31,775	1,732	253	6,725	12,747	59	46	143,563	65,739	209,302

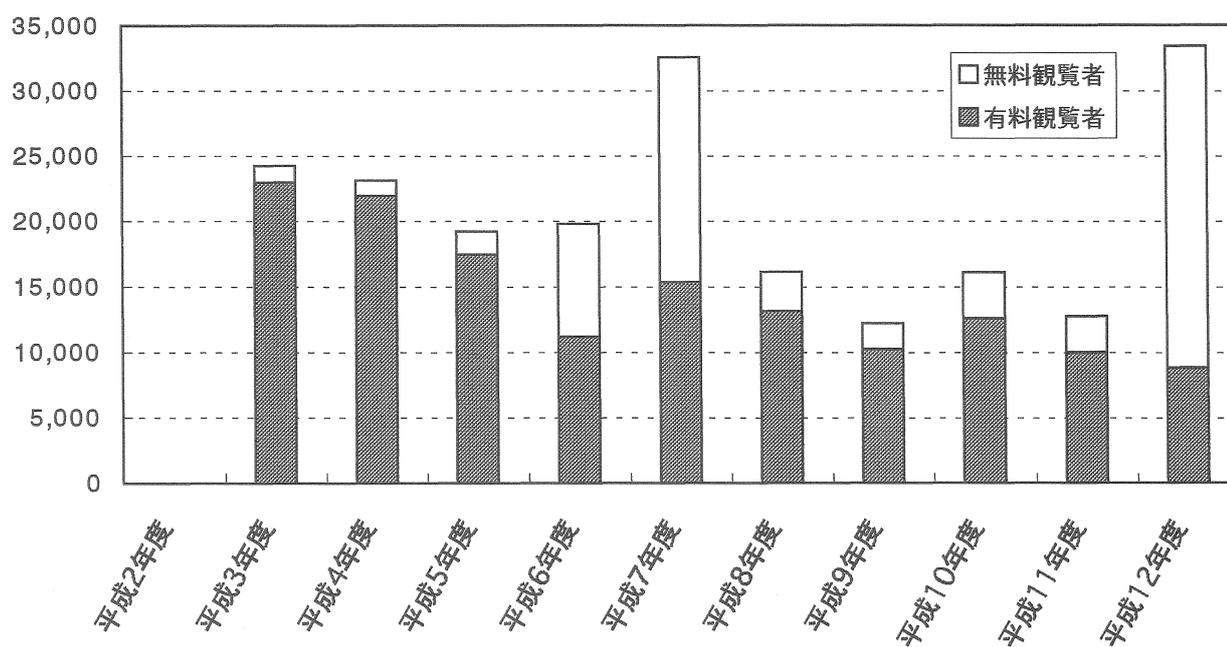
●特別陳列観覧者数累計(平成4～12年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13～2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平8.2.16～3.17	27	5,358
第3回館蔵品展 「自然コレクション」	平11.7.17～8.29	38	22,372
2000年度同和問題 啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
写生大会作品展	平12.12.5～12.24	18	1,850
累計		168	45,108

●常設展観覧者数（平成2～12年度）



●企画展観覧者数（平成2～12年度）



Ⅶ 施設の概要

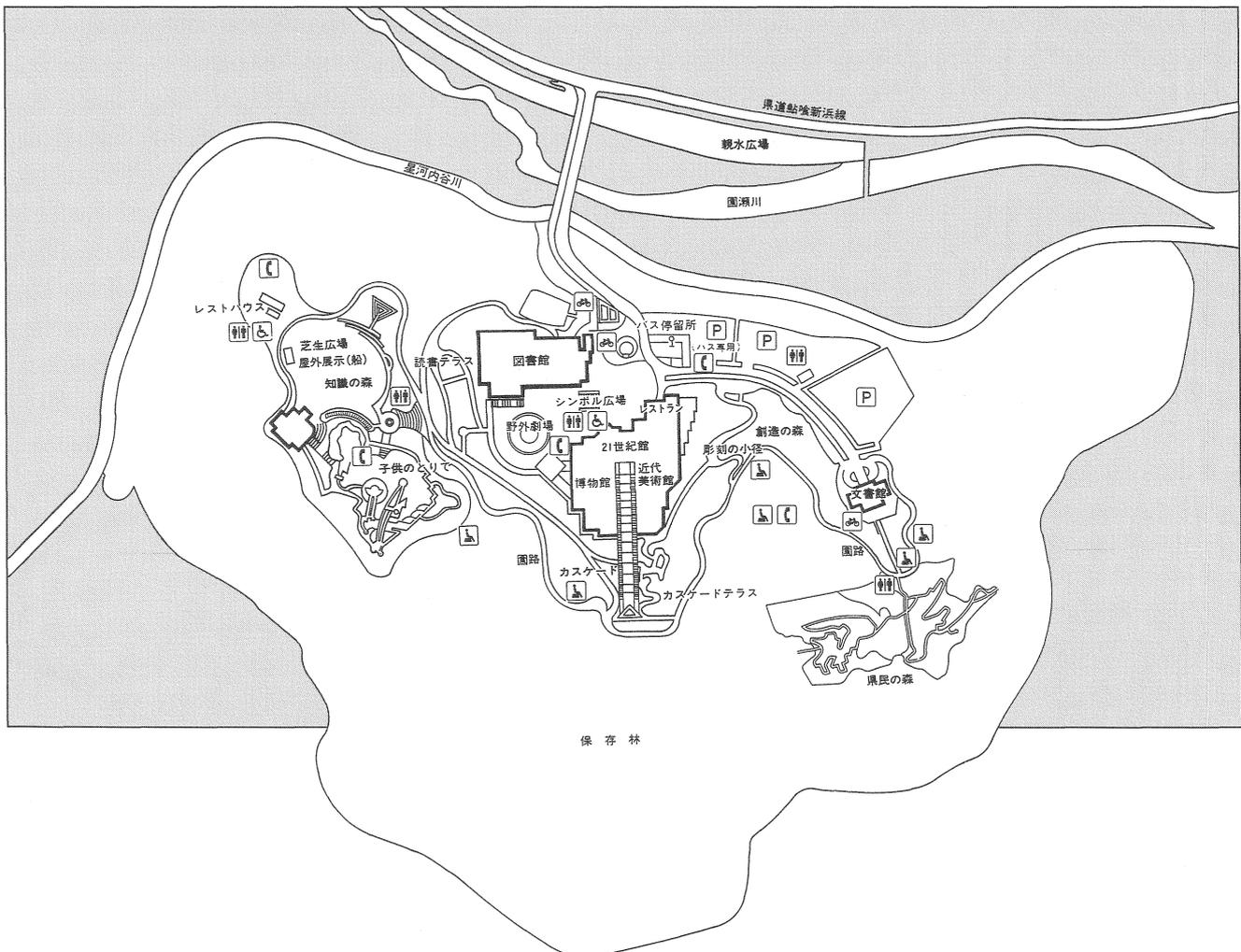
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	博物館が、日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く文教施設として指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363㎡（3館棟）
- 延床面積 22,382㎡（3館合計－積層部分を含めると23,814㎡）
8,133㎡（博物館占用スペース）

- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
 - 建築 —— 大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
 - 電気 —— 四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
 - 空調 —— 東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
 - 管 —— 朝日工業社・大成設備 共同企業体
 - エレベータ —— (株)東芝
 - 家具 —— 富士ファニチア(株)
 - 移動展示ケース —— (株)三井
 - 展示 —— (株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積 ^m ²
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
保存処理室 1	70
その他共用部分※	771
小計	2,043

2 階	
室名	面積 ^m ²
総合展示室	1,252
ラブラク記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

4 階	
室名	面積 ^m ²
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

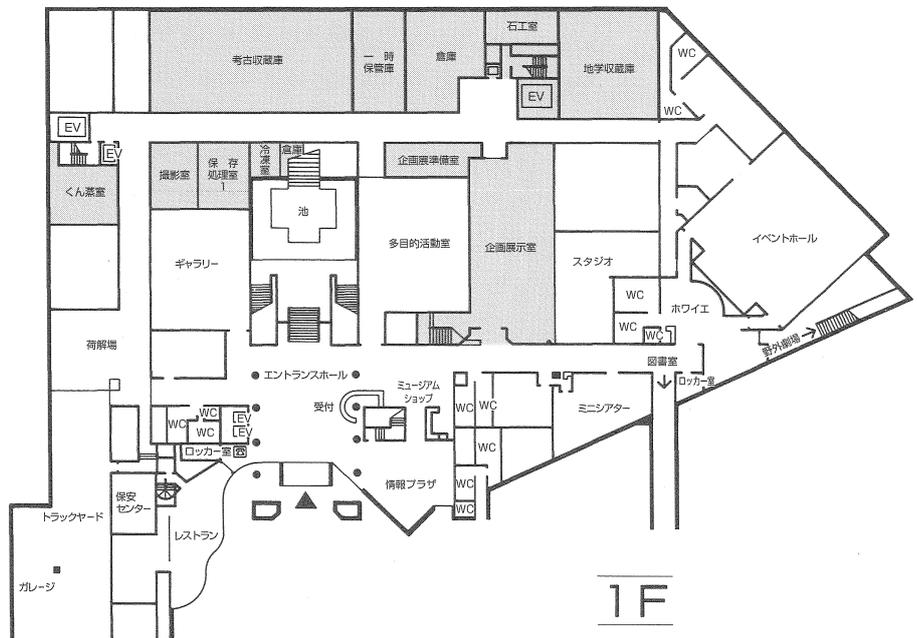
3 階	
室名	面積 ^m ²
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室 1	64
分析室 2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

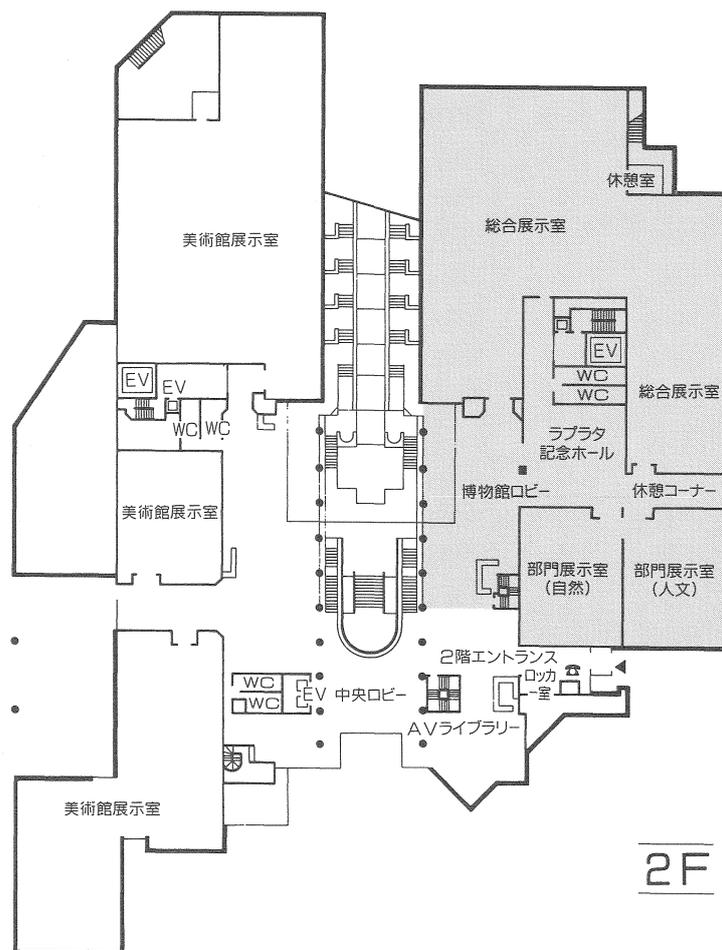
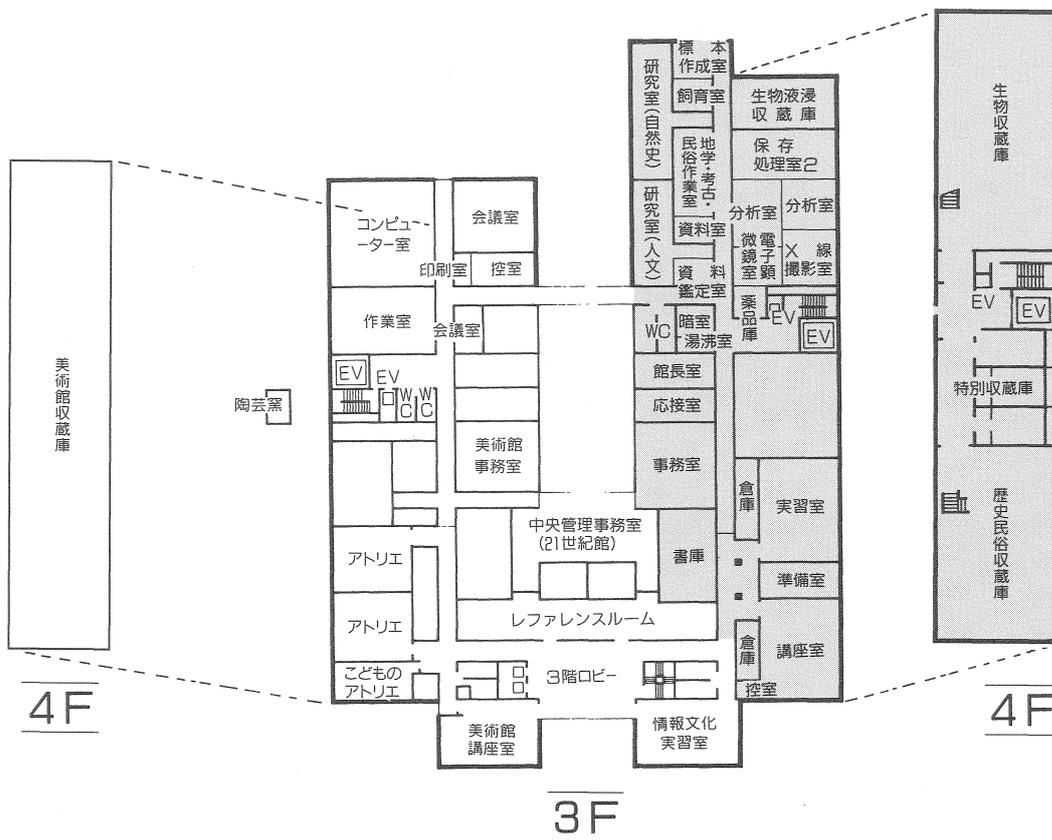
屋 1 階	
室名	面積 ^m ²
その他共用部分※	39
小計	39

合 計	
8,133 ^m ²	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。

博物館占有スペース





VIII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 平成9年3月28日 徳島県条例第34号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協 議 会 の 名 称	所 掌 事 務
徳 島 県 立 博 物 館 協 議 会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(4館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 (省略)
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20人以上をいう。以下同じ。)	個 人	団 体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事がその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長(以下「館長」という。)は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成13年3月30日 徳島県教育委員会規則第13号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務局 (省略)

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に総務課、自然課及び人文課を置き、総務課に庶務係及び普及係を置く。

2 前項の課及び係の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

(所長等の職務)

第32条 教育センター、情報処理教育センター、少年自然の家及び埋文総合センターの所長、文書館、21世紀館及び中央武道館の館長並びに県民運動場の場長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館

(教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、当該機関に属する次長又は副館長が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し特に命ぜられた事項を処理する。
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係 長	上司の命を受け、係の事務を処理する。
事 務 主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の各協議会等は省略)

●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制 定 平成2年11月3日

最近改正 平成8年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。)

第4条第3項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減免)

第2条 観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者(昭和57年1月6日付け社更第4号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。)の介護者(一名に限る。)、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者(一名に限る。)並びに精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者(一名に限る。)が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (3) 年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (4) 学校週5日制の実施に伴い学校が休業日となる土曜日(毎月第2土曜日及び第4土曜日、祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (5) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する祝日及び休日(1月1日を除く。)に観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (6) その他徳島県立博物館長(以下「館長」という。)が特に必要と認めるとき。館長が必要を認める額(観覧料の免除申請等)

第3条 前条第1号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書(様式第1号)を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の申請を適当と認めたときは、徳島県立博物館観覧料免除承認書(様式第2号)により承認するものとする。

3 前条第2号又は第3号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保険福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第1号及び第2号(省略)

●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第6条の規定に基づき、徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

(手続)

第3条 資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第1号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

3 館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第3号）を提出させるものとする。

(許可基準等)

第4条 資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

- (1) 特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。
- (2) 特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。
- (3) 寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) その他、館長が不相当と認めるとき。

2 資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

- (1) 国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法に定める公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法に定める図書館
- (4) 学校教育法に定める学校
- (5) その他、館長が相当と認める者

(条件)

第5条 資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。
- (2) 係員の指示に従って資料を取り扱うこと。
- (3) 資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。
- (4) 特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

(損害賠償)

第6条 資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第1号～第3号（省略）

●徳島県立博物館資料寄託取扱要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第7条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

(手続)

第2条 徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料寄託申請書（様式第1号）を提出し、資料寄託許可証（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第3号）を交付するものとする。

3 寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

(許可基準)

第3条 館長は、資料の寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

(1) 国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料

(2) 博物館資料として展示等に活用できる資料

(3) 博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料

(4) その他、館長が特に必要と認める資料

(寄託期間等)

第4条 資料の寄託期間は、5年とする。

2 寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第2条による手続を行わなければならない。

3 寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

4 寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

5 館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第2条による手続を行うものとする。

(寄託資料の特別利用)

第5条 徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

2 第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

(経費等)

第6条 寄託資料の運搬等に要する費用については、寄託者が負担するものとする。

2 寄託資料の保管料については徴収しない。

3 寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

(管理)

第7条 寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第1号～第3号（省略）

徳島県立博物館年報 第10号 (平成12年度)

平成13年 (2001) 6月30日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

Eメール museum@staff.comet.go.jp

ホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/>

印 刷：(株)教育出版センター
